

第 I 部

教職を目指す学生へ

教員採用試験合格者の経験を聞く

モチベーションを作る大切さ

K.W. (文学部日本文学科4年)

わたしは小学校5、6年の頃から教員という夢・目標を持っていました。しかし、大学に入ってから、3年の夏頃まで就活をするのか、教員採用試験を受けるのか迷っていました。実際には、教員になるという後押しがどこかで必要だったのだと、今は感じています。その時に、出会ったのが教職課程センターです。大学3年の秋から教員採用試験が終わるまでの経験から学んだことを記して、みなさんの後押しに少しでもなれば幸いです。

1 ピンチはチャンスに

わたしは、千葉県の中高共通の試験を受けたため、2次試験では模擬授業がありました。そのため、教職課程センターの模擬授業講座にも参加しました。その講座は、3年生の3月に初めてあったのですが、そこでわたしは強い焦りを感じました。人前で話すことは慣れていていると思っていましたが、いざ“授業”というものを人前でやると全くうまくいきませんでした。その時は誰よりも下手だったと自負しています。少し落ち込み、センターの先生にも自分は教員に向いていないのではないかと相談しました。そこで先生が掛けてくださった言葉は「皆が最初から教員に向いているわけではない、そうなるように頑張れば大丈夫だ」というものです。一言一句そのままではない気がしますが、その言葉でわたしはやる気を取り戻すことができました。そして、そこからは誰よりもできないからこそ工夫して、努力してやると決めて、模擬授業の練習をするたびに一つ成長する部分を必ず作るようにしました。結果的に、わたしは試験本番までに模擬授業が自分の中では武器と言えるようになりました。この話から、伝えたいことは<ピンチはチャンスに>です。最初からうまくいくことばかりではありません。しかし、それを理解して、原動力にして努力すれば必ずうまくいきます。みなさんもやれば誰もがができるはずです。

2 毎日の成長を楽しむ

上記の内容とも少し重なりますが、日々できることが増えていくことに、喜びを感じられるとやる気は益々上がっていきます。今日は昨日の自分より一つでもできることが増えたと言えるかどうかです。1次試験の筆記対策でも、今日はこれ覚えることができた、理解することができた、と。2次試験の面接や模擬授

業の練習では、今日はこんなところが成長できた、こんな対応ができるようになった、と。日々成長しているということは、少しずつですが毎日良い教員となることに近づいているということです。そんなに素晴らしいことはないと思います。やりがいは人それぞれだと思いますが、日々変わっていく自分、成長していく自分を楽しむことはやる気を維持する上で、良い方法ではないかとわたしは考えます。

3 1つ1つのこだわり・差異化が大きな武器に

ここでは少し、試験にフォーカスしたことを記します。1次試験は越えるべきハードルです。しっかり勉強して堅実に乗り越える必要があります。また、しっかり勉強を行っていれば良くも悪くも差がつくものではありません。問題は2次試験です。2次試験は取り組み方で大きな差が出ます。ここで、わたしが大切だと感じて、伝えたいことは<1つ1つのことにこだわり、差異化するべき>ということです。例えば、模擬授業では授業構成や発問、生徒の主体的活動を工夫することはもちろん、その他に“声”や“導入”、“表情”にまでこだわるなど。面接では、面接カードに対する準備はもちろん、はっきりとした“自分の強み”、“志望理由”を作る、加えて“その自治体のどんな教育に自分は貢献できるのか”まで用意しておくなど。面接に関しては、質問を予想するとキリがありませんが、わたしはありとあらゆる質問予想集を参考にして、どんな質問が来てもいいようになるまでこだわりました。集団討論も同じです。周りを見ながら話すことや他者の話はうなずくなど、基本を徹底しながらも、プラスして自分のこだわりを持つことが差異化につながります。要するに、細かいこだわり、工夫、差異化の積み重ねが結果として、他者との大きな差につながります。ぜひ、何となく取り組むのではなく、意識的にこだわってほしいと思います。

4 仲間の大切さ

教職課程センターにお力添えいただいて、感じたことの1つに仲間の大切さがあります。もちろんセンターの先生や講座などが大きな推進力となりますが、教員採用試験は絶対に1人では乗り越えられません。精神的な面も少なからずありますが、何より2次試験対策を仲間とともにできるからです。他者にみてもらうことで、自分では見えないものが見えて改善につながりますし、他者の良いところも真似することができます。自分より上手い人がいれば、良い刺激にもなります。仲間と練習することで、お互い高め合えるので

す。そして、これは当たり前のことではありません。このような教職課程センターという環境が整っているのは、どの大学でもあるわけではないです。その環境に感謝しつつも、特権として貪欲に最大限活用して、教員採用試験に向かっていただけたらなと思います。そして、そこでできた仲間をその後も大切にできたら良いとわたしは考えます。これは、これからの自分の楽しみでもあります。

5 夢を原動力に

わたしは夢を叶えて、千葉県の高등학교の教員となります。ここまで、教員採用試験に励めたのは、夢を叶えたい、本気で教員になりたいと思えたからです。教職を目指すみなさんにも、大小問わず何かしら教員を目指す理由があると思います。その“思い”を忘れずに、ぜひ仲間と共に頑張ってください。心から応援しております。

教員採用試験で人の温かさに触れた話

K.O. (法学部法律学科4年)

〇はじめに

私は令和5年度千葉県・千葉市教員採用候補者選考(4年度実施)にて、中高共通・社会科で合格することができました。合格に至るまで、決して順調な道のりではありませんでしたが、試験を受けることによってたくさんの人と出会い関わり、支えられて乗り越えることができたなと思っています。今回は具体的な勉強方法や試験の雰囲気、試験の対策にあたっての悩みや葛藤などを述べようと思っています。少しでも誰かのお役に立てれば幸いです。

〇焦りと不安

もともと小学校の時の担任がよくしてくれて「先生って楽しそう」と思ったのをきっかけに漠然と教員を目指し続けていました。ずっと教員を夢見ていたにも関わらず、就活が本格的に動き出す3年の2~3月で友人が内定をもらったり説明会に参加するようになって焦る気持ちが生まれてしまい、教職と並行して民間企業を受ける準備をし始めてしまいました。父親から「自分のやりたいことをした方がいいよ」とのアドバイスを受けて我に返り、教採一本に絞って準備を始めたのは3年の3月初旬になります。

しかし、教採に集中するようになってからも悩みや不安は絶えることはありませんでした。教職課程センターが開いてくださる講座に参加しており、3月ごろから千葉県を受験する人たちと自主的に練習したり情報を共有するようになりましたが、私は他の人たちと比べてゼミにも参加していないし、千葉県の研修制度「ちば!教職たまごプロジェクト」も私だけ参加して

いない状況でした。面接表に書く項目や教職についての知識、面接で話せるような話題がなかったのです。まずは話題作りからと思い、面接票の添削を一生懸命取り組んだり、公立中学校で学習支援のボランティアをするところから始めました。

〇一次試験までの対策

前述の通り、私は周りと比べて試験に向けて対策をし始めるのが遅かったため、教職教養や専門教科の勉強は量よりも質を重視して取り組みました。千葉県社会科の試験は日本史・世界史・地理・政治経済・倫理すべてが出題されるので、最も不安視していた世界史はTry Itやスタディサプリなどの映像授業を見ながら知識を入れていきました。他の科目は協同出版が出している「千葉県・千葉市の社会科過去問2023年度版」を購入し、とりあえず問題を解いてみて分からないところを自分が高校生の時に使っていた教科書を掘り返して復習していきました。教職教養に関しても勉強の仕方は専門教科と一緒に、共同出版の過去問を解き、教職課程センターの講座で配布してくれるレジュメを参考に復習していきました。

模擬授業や集団面接、個人面接は教職課程センターの講座だけでなく千葉県受験の人たちと集まって練習し、面接や模擬授業に慣れておくようにしました。

〇一次試験について

千葉県の一次試験は筆記試験と集団面接です。私たちが受けた時は電車の遅延の影響で30分繰り下げて始まりました。前日までは本当に緊張していましたが、急な変化にも「復習時間延びてラッキー」と思って取り組むことができました。筆記試験の雰囲気は中学や高校で経験したような定期テストと同じようなものでした。ただ、専門教科と教職教養の間が短いため、専門教科は前日までに完璧に仕上げしておくことをおすすめします。

集団面接は筆記が終わった後に体育館に移動して、順番が来るのを待ちます。面接官の2人は質問をゆっくり言ってくれたり頷いてくれたりとても優しく緊張せずに取り組むことができました。「聞かれたことについて答える」ということを意識して取り組みましたが、他の受験生の意見を聞いていると少しずれたような回答をしている人もいたので、千葉県受験のみんなと意識して練習したことが功を奏したと思っています。「聞かれたことについて答える」は単純なようですが意外と難しいのです。

〇二次試験

千葉県の二次試験は個人面接、模擬授業、適性検査です。受験生が3グループに分かれ、順番にそれぞれの試験が行われました。

模擬授業は同じグループの受験生に圧倒されずに練

習通り力を発揮することが大切です。個人的にはマスク越しでも笑顔、ペアワークも和やかに笑顔を意識しながら行いました。

個人面接の面接官は2人とも優しくかったのですが、回答に対して反応が良くないこともあってとても不安でした。たくさん練習してきた中で一度も聞かれなかった質問がきても動じずに「聞かれたことを答える」を意識すると良いと思います。自然な笑顔で、自然な相槌で、とにかく普段の会話のように何事も自然にこなせるように練習しておきましょう。二次試験は表情や話し方で人間性が評価されるのだらうと感じました。

○最後に

試験の準備段階では先の見えない不安の感情がとても大きく、自分がやってることは本当に正しいのだろうか、自分の武器が少なすぎではないかと何度も悩み、面接練習のときに戸塚先生の前で泣いてしまったこともありました。先生の前以外でもたくさん泣きました。しかし、準備をしていく中で戸塚先生をはじめ教職課程センターの方々、一緒に勉強して練習してくれた仲間たち、現役の教員の方々、家族、友人などたくさんの人に支えられ、温かい言葉をいただいて、前向きな自分に変わることができたと実感しています。本当に強くなりました。私が戸塚先生からいただいた「謙虚な意欲」という精神はこれから受験する皆さんの心にも留めておいてほしいです。皆さんの決断が納得のいくものになるよう祈っております。頑張ってください！

チーム法政で掴み取る合格

S.Y. (文学部英文学科4年)

1. はじめに

私は今年度、埼玉県中学校英語科の教員採用試験を受験し、無事合格することが出来ました。私の体験が、これから教員採用試験に臨む皆様の力になればと思います。

2. 一次試験の対策

まず一次試験の対策を始める前に自分が受ける自治体の過去問を解く、または分析してみてください。教職教養・一般教養ともに自治体によって出る割合が大きく変わります。埼玉県では毎年教育史の範囲から出題されていたので重点的に学習を進めていきました。教職教養・一般教養は何から勉強して良いかわからなくなってしまいう傾向があるので、出る問題を知り日々の学習に取り組んでいきましょう。

(1) 教職教養の対策

まず私は教職教養は戸塚先生が紹介して下さった教材を3月ごろまでひたすら読み込んでいました。最

初の方は何もわからず焦ってしまうかもしれませんが、戸塚先生のことを信じて何度も繰り返し読んでください。必ず実力はついてきます。一通り読み終わったら問題に挑戦してみてください。教職教養独特の問題の出し方(数字が違う、法律名が違うなど)があるので、それに慣れてください。おすすめは全国の教職教養の過去問があるので自分の自治体の過去問と併用して学習を進めていってください。また戸塚先生の講座を受けた日はその内容を復習しその内容を完璧にしておく、後々の勉強が非常に楽になります。

(2) 一般教養・専門科目の対策

一般教養は何から手をつけていいのかわからなくなってしまいます。自治体にもよりますが高校入試レベルの問題が解ければ、問題なく突破できると思うので5教科の勉強は高校入試レベルまでを完璧に解けるようにしてください。5教科以外の科目(音楽、美術など)が出題される自治体を受験する人は、対策用の参考書があるのでそれを何度も見て時間をかけて学習していってください。私の専門科目は英語でした。英語ではTOEICや英検が加点申請の対象になっている自治体が非常に多いので、学習を進めていくとよいです。私は3月まではTOEICの学習を行い、4年の4月以降に埼玉県の過去問を解き始めました。教員採用試験の英語は英検準1級程度の単語が読めれば解けるので、単語学習は英検のものを使って進めていくとよいです。英語は継続的に学習していかないと読めなくなってしまうので電車の時間等を上手く活用して毎日触れるようにしてください。

3. 二次試験の対策

埼玉県の中学校の二次試験は論作文・面接・集団討論で行われました。それぞれ自分が行った対策を述べていきます。

(1) 論作文

私は論作文が非常に苦手で、書き始めた頃は「もう無理だ」と諦めてしまっていました。しかし本番では論作文で満点をとることが出来ました。具体的に行ったことは講座には必ず出席し、習ったことを素直に実践してみる。そして月に3回は必ず論文を書き、戸塚先生との個人面談を行っていました。回数を重ねるごとに書くものが同じになってしまい、変化が生まれないという壁にぶつかりました。その際に論作文が上手な友人に論作文を見せてもらい、参考にしながら意識的に改善を図っていきました。論文は非常に大変で同じものを書いて出せばよいと思ってしまうこともありますが、自分に喝を入れてより良い論文が書けるように粘り強く頑張ってください。

(2) 面接・集団討論

面接に関しては一人でできる対策と仲間と行う対策

にわかれます。まず講座で配布された面接対策用の質問に自分なりの解答を作成してください。まだ難しいから後で考えようと思っていると自分の芯がぶれてしまいます。私は後回しにしてしまっ、日によって解答が変わってしまいました。それでは面接練習をしている意味がないので今の段階から始めていきましょう。また受ける自治体の教育の特徴を2つは調べておきましょう。いじめへの対策や働き方改革、不祥事の防止などを見ておくといいです。仲間と行う練習では話す内容や速度など自分では気づけないようなことに注目してアドバイスをもらいましょう。特にロールプレイの試験がある人は一人で悩むのではなく、同じ自治体の人と練習を重ねてください。

集団討論も対策は面接と同様です。講座で言われる注意点を徹底して行ってください。私がやってよかったと思う対策は「1人集団討論」です。過去問からテーマを選び、自分一人で集団討論の形式に沿って行うというものです。これによってある程度解答にパターンができ、短い構想時間でもアイデアを出すことができます。また自分一人で考えたことを友人と共有することで自分の意見の幅が広がっていきます。

4. おわりに

教員採用試験を合格するために大切なことは、「仲間と協力して取り組むこと」です。私は心が折れそうになった時、いつも一緒に頑張ってくれている仲間がいたからこそ最後まで頑張ることが出来ました。チーム埼玉で過去問の情報共有・面接、集団討論練習をしたおかげで私たち埼玉県メンバーは全員合格することができました。勇気をもって話しかけ、同じ自治体だけでなく、チーム法政として合格をつかみ取ってください。

教員採用試験を受験予定の皆さんへ

C.N. (法学部法律学科4年)

1. はじめに

私は、埼玉県高校地理歴史科の教員採用試験を受験し、合格を頂くことが出来ました。

その際の対策について合格体験記を通してお伝えし、来期以降の試験を受ける皆さんの支えになればと思います。

2. 1次試験対策

(1) 教職教養・一般教養

1次試験では、どの自治体についても受験が必須となるのが教職教養です。大学の教職課程で学習した内容に加え、近年の教育時事や自治体別の教育知識が問われます。教職教養は、勉強量に比例して得点が伸びる科目になるので最も注力すべきです。特に、教育

法規は大部分を占めている自治体が多数なので早めの対策をお勧めします。一般教養は、自治体により有無が異なります。埼玉県は教職教養と同様の配点になるため、直前に過去問を10分分解き、苦手科目を重点的に学習しました。美術や音楽等のかかなり細かいところまで出題されるので勉強の優先度は他科目に比べて下げてもよいと思います。

(2) 専門試験

埼玉県の地歴科では、専門科目で日本史・世界史・地理が出題されました。専門科目の勉強は、最も早い大学3年の夏から開始しました。というのも、日本史や世界史を高校生や受験の際に全範囲網羅しているためではなかったためです。教科書やYouTube、共通テストを活用しながらインプットとアウトプットを何度も繰り返し、試験に臨みました。しかし、試験では想定していた得点を取ることができませんでした。出題形式が暗記することで正答できる問題から図・データの読み取りや時代の流れと知識を組み合わせながら解く問題になっており、科目の知識を有しているだけでは得点できなかったためです。教員採用試験においても思考力・表現力・判断力を重視した出題形式に変化していると感じました。そのため、専門科目の勉強としては知識を取り入れ、教科書や資料集の図やデータに目を通し、関係性を把握していくことが必要です。

(3) 1次試験に向けて

1次試験は、筆記試験が大部分を占める自治体が多くなります。そのうえでまずは過去問に目を通し、研究し、出題傾向を把握しました。どのような問題が出題されるかをあらかじめ知っておくと学習のイメージを持ちやすいですし、勉強効率も上がると思います。また、満点を取りに行くことは目指さず、確実に合格点に繋げる手段を模索してください。

3. 2次試験対策

(1) 個人面接

面接では、受験者に関することや教育知識、実際の教育現場での振る舞いまで幅広く問われます。特に志望理由は学生時代の経験を踏まえながら何度も修正しました。面接対策としては、回答集を作り、臨機応変な対応が出来るようにできる限り多くの人と何度も練習を重ねました。本番でも全く想定していなかった質問が問われましたが、何とか乗り切ることが出来ました。個人面接はどの自治体でも大きな比重を占めていますので、早い段階で対策してください。

(2) 論作文

最も苦勞したのが論作文でした。与えられたお題に知識や自身の考えを踏まえながら解答します。800字程度の短い字数内にまとめ上げるのが、大変難しかったです。10月に始まった講座を活用しながら1月か

らは毎週2題のペースで書き始めました。時間内に収めることははじめは難しいかもしれませんが、添削をしていただくことで徐々に慣れ、質と量ともに合格ラインに乗ることができると思います。論作文は慣れが必須になりますので、内容が不十分でも時間内に終えられなくてもめげずに書き続けてほしいです。

(3) 集団討論

集団討論は、講座を活用しながら1月から対策をはじめ、1次試験後から本格的に始め、講座の仲間や他大学の友人と共に毎日練習していました。進行役や時間管理役など多くの経験をしながら自分の得意不得意を見極めて立ち回る必要があります。その中で、根拠を基にした意見主張や話題転換、聴く姿勢など幅広い観点から見られていますので、練習の中で仲間たちとフィードバックを行いながら自分の立ち振る舞いを何度も見つけ直してみてください。

(4) 2次試験に向けて

2次試験対策は、1次試験後から始めるのでは間に合いません。1次試験の勉強をしながら講座等を活用して同自治体の仲間たちと練習を少しずつ始めてください。

4. おわりに

教員採用試験対策は、受験科目が多く、教育実習と並行して行わなければなりません。また、試験時期が遅いため、焦りを感じることもあるかもしれません。しかし、講座の先生のご指導や仲間との意見共有が知見の拡大やモチベーションの向上へと繋がり、つらい時期を乗り切ることが出来ました。採用試験に対し、不安や迷いを抱えている方もいるかとは思いますが、まずは自分でできる勉強を早い段階からスタートさせてください。そして、仲間と協力しながら対策を重ね、試験に向けた十分な準備を行ってください。応援しています！頑張ってください！

私のキャリアデザイン

A.A. (キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科4年)

1. はじめに

今年度、埼玉県中学校社会科の教員採用試験に合格をしました。教員採用試験に向けて勉強してきた約1年間は、私にとって、とても大きな挑戦であり、同時に成長できた時間です。

私自身の経験がこれから教員を目指すみなさんに少しでもお役に立てたら幸いです。

2. 教員を目指す理由

中学生の頃、多くの先生方に背中を押していただいた経験から、私も子供達の背中を押し、支援できるような教員になりたいと思いました。元々、スポーツが

得意で体育の教員になりたいと思い、体育大学を目指していました。しかし、怪我で体育大学を諦め、いろいろな縁があり法政大学に入学しました。私が入学したキャリアデザイン学部のカリキュラムでは、社会科の免許しか取得できません。目指していた体育教員にはなれなくても、誰かの役に立つことが好きな私は、教職課程で頑張ることを決めました。

ただ、私は社会科が大の苦手であり、その苦手な教科で試験を受け、教員として教えることに対して不安しかありませんでした。しかし、苦手であれば、社会科が苦手な生徒の気持ちができるし、生徒達を目線に立って授業を展開することができるのではないかと思います。そんな私は1年生の頃から中高6年間分を取り返すため、勉強を始めました。しかし、なかなか身が入らず教員になりたいのかどうかもわからなくなってくる日々でした。正直、3年生の秋まで民間にするか、教員にするか迷っていましたが、戸塚先生との初回の個別面談で、今までの私の経験を1番発揮できるのは教員の道だと思い教員の道に一本化することを決断しました。あの時、教員の道を選んだ自分は間違っていなかったと思います。

3. 一次試験に向けて

〈専門教科〉

埼玉県の一次試験では、専門教科と教職教養・一般教養が幅広く出題されます。1年生からコツコツ積み重ねてきましたが、本格的に勉強を始めたのは2月ごろからだだと思います。勉強方法としては、参考書を一冊購入して勉強を進めていき、必要に応じてYouTubeなどを活用していきました。

〈教職教養〉

とにかく講座でやったことは全て暗記しました。専門と同じように、参考書を一冊購入して勉強しました。教職教養は講座がなかったらやっていけなかったと思うくらいとても貴重な時間です。

〈一般教養〉

元々、理系教科が得意だったため、理系は全て解けるように参考書を何度も繰り返し解きました。文系科目はほとんど勉強せず、試験1ヶ月前くらいから単語カードを使って美術や音楽を詰め込みました。

教養科目は基本的なことを理解した上で過去問を解きました。埼玉県だけでなく、他の自治体のものも解いてみると力がつくと思います。

また、単語カードは副教科だけでなく、専門教科等の勉強にも活用しました。通学時間や隙間時間にも勉強できるので便利だと思います。

4. 二次試験に向けて

埼玉県の二次試験は、論文試験、面接試験、集団討論を行います。二次試験対策は決して一人の力ででき

るものではなく、戸塚先生をはじめとする教職課程センターの方々、教採を受ける仲間など多くの人の協力のおかげでできたものだと思います。

〈論文〉

講座の他に、2月くらいからは自分でも毎週最低1本は書くようにしていました。最初は800字の論文を仕上げるのに2時間かけて書いており、時には1時間全くペンが動かないこともありました。戸塚先生に添削していただいた論文は週末に必ず書き直しをするなど、自分なりの工夫をしました。

〈面接〉

ずっと目指してきた教員であるはずなのに、なかなか言葉にするのは難しく、言えない自分に悔しさを感じました。また、自分のことを人に話すのが苦手で極度の緊張から涙が出てきてしまう事があり、それを克服することが大変でした。とにかく数をこなすこと、これが合格への鍵になると思います。

〈集団討論〉

中学校の教員は集団討論の試験日が他よりも遅かったので、他の自治体の試験が終わってからいろいろな人に協力していただいて練習しました。人数が少ない時には、問題文を読んで構想を立てたり、話の流れを考えたりして人数が集まってできる練習を無駄にしないようにしていました。問題文にしっかりと正対すること、論文もそうですが、これが集団討論には大事なことだと思います。また、いいことが言えなくても、グループの中での自分の立ち位置を瞬時に判断し、グループの話し合いをうまく進めていくことが重要で

5. 終わりに

以上が私の体験記です。私は本当に気が弱く、何度も諦めそうになりました。その度に周りの大人や仲間を支えられて合格することができました。私にとってこの経験は本当に貴重なものであり、ここで出会った仲間は財産だと思っています。

“一緒に試験に挑む仲間と共に合格する”、この思いを忘れずに頑張ってください。皆さんのことを応援しています。

努力の継続と仲間の大切さ

K.T. (文学部日本文学科 4年)

〈はじめに〉

私は東京都の教員採用試験を中高共通国語科で受験し、合格を頂きました。教採は受験科目も多いので短期間の勉強ではなかなかクリアできません。試験に向けて何をどのように勉強したのか以下に記しますので、少しでも皆さんのお役に立てれば幸いです。

〈一次試験（教職教養・国語・論文）〉

私は教職課程センターの講座が開始した10月ごろに勉強をスタートさせました。最初は先生におすすめて頂いた参考書から手を付け、徐々に自分に合った勉強スタイルを作ったので、東京都の一次試験科目である教職教養・国語・論文に分けて取り組んだことをお話しします。

○教職教養

最初は参考書をひたすら読んで頭に入れようと考えましたが、覚えられなかったのでYouTubeで「きょうさい対策ブログ」というチャンネルを見て基礎知識を頭に入れました。2月末ごろに一度過去問を解き半分ほどの得点に危機感を覚え3月から東京都の対策に移行しました。

東京都の教職教養はほかの自治体と比べて特殊だと感じています。一般教養がなく、問題数25問に対して試験時間60分なのでスピードは求められていません。教育法や指導要領を完璧に覚えて穴埋めができる能力ではなく、細かい正誤判定能力が必要です。参考書などの基礎知識だけでは半分ほどしか得点できませんが、毎年同じような問題が出題されているので過去問を何年分も解いて（私は12年分を2回ずつ解きました）間違えた問題を新たな知識としてインプットすることを繰り返していけば得点率が上がっていくと思います。

○国語

大学生になって日常的に国語の問題を解く機会が少ない人がほとんどだと思います。私自身大学受験ぶりに向き合うことになりました。教職教養の一方、こちらは評論・小説・古文・漢文・学習指導要領を60分で解ききらなければならないのでスピードが求められます。過去問だけでは数が少ないので、センター試験の過去問を買って毎日解いていました。結果的に27年分のセンターの過去問を春休みの間に解き、スピードをつけたうえで4月から教採の過去問を12年分解きました。また学習指導要領は後回しにしてしまいましたが、大切な得点源です。中学校は各学年ごとの内容の違い、高校は各科目の内容の違いについて春ごろから少しずつ覚えておくことをお勧めします。

○論文

論文は10月から講座で書き始め、1月からは週に1度個別相談の枠を予約することで強制的に書くようにしました。講座と合わせて週2回ほど書いていたと思います。6月に入る頃には制限時間も意識していました。様々な出題テーマで数多く書いて添削して頂き「論文を書くことに慣れる」のが一番だと感じます。

〈二次試験（集団討論・個人面接）〉

○集団討論

講座以外では、4月頭ごろに東京都受験者でグループを作り、2週に1度くらい練習していました。しかし一次試験が近づくとつれ教職教養などの勉強でいっぱいいっぱい、本格的に集まって練習し始めたのは一次試験後からです。そこから二次試験までは平日は毎日のように集まって練習しました。集団討論も慣れが必要だと思うので、与えられた25分間の中でのどのような流れにしたいかみんな考えておくと本番も自然と軌道修正役に回れると思います。(私たちは課題テーマが出された背景→テーマの具体化や認識共有→柱立て→具体的な方策→まとめという流れが一番良いという結論に至りました)また東京都は一次試験の合格発表後に(漠然としたものですが)課題テーマの候補が送られてくるので、二次試験直前はそのテーマ候補をひたすら練習していました。

○個人面接

講座以外の流れはだいたい集団討論と一緒に。一次試験後に本格的に練習を始めました。個人面接で大切なのはしっかりと芯を持って話すことだと思います。自分はどんな教員になりたいのか、どんな子供たちを育て、どんな力を身に付けさせたいのかを考えることが必要です。そのうえで教員や受験自治体の志望理由などはボランティア経験や教育実習での経験を活かして自分だけのオリジナルのものをつくれると良いと思います。また個人面接全体に言えることですが、基本的に例年同じようなことが質問されるので過去問集や個別相談、講座で扱った問題は自分なりの解答をノートにまとめスラスラ言えるようにしておくことと本番の緊張状態の中でも答えられます。

〈おわりに〉

私が教採受験にあたり一番やってよかったと思うのは仲間を作ったことです。分からない教職教養の問題を質問し合ったり集団討論や個人面接の練習をしたり、仲間を作れたことで孤独感を感じずに頑張ることができました。教採は一般の就活よりも時期が遅く周りが内定をもらって焦ることや、一次試験前は教育実習で勉強時間が取れないことへの不安を感じることもありますが、教職課程センターを信じて努力し続ければ必ず合格できます。来年の皆さんの合格を願っています。

努力はウソをつく、でも無駄にはならない。

H.O. (文学部英文学科4年)

はじめに

令和4年度川崎市教員採用試験にて、私は中高英語科で合格を頂くことができました。他の自治体に比べて法大生で川崎市の受験者は少ないので、情報収集が

大変だと思います。そこで、合格までの道のりやアドバイスを少しでも共有できたらいいなと思います。

前提として、私は大学推薦をいただくことができたのですが、1年生の時から良い成績を取ることを意識していました。1、2年生の方は今からでも好成绩を残す、3年生は毎年いろんな自治体から募集が来るので教職課程センターからの連絡をこまめにチェックするよう心がけましょう。

試験に臨む第一歩

私が初めて教職課程センターを利用したのは、3年生の夏休みでした。当時から教員を目指していたものの何から手を付ければ良いのか分からず、一般企業の道も完全には捨ててきていませんでした。個人面談で戸塚先生から「とにかく英語を勉強する」「川崎市を受けるのであればかわさき教師塾を受講する」という助言を頂きました。すぐに英検・TOEICの勉強と教師塾の応募に取り掛かりました。

かわさき教師塾では、武蔵溝の口駅付近で9月から2月にかけて川崎市を受験する人たちが集まって、川崎市が求めている教師像などについて学びました。試験の直接的な合否には関係ありませんが、教師塾を通してようやく「川崎市の教師になりたい」という明確な目標が定まりました。また、様々な校種を志望する受講者と出会って、仲間/ライバル意識が芽生えました。

試験対策に本腰を入れる

3年生の10月から教職課程センターで教員試験対策講座が始まりました。この時初めて論作文と面接に挑戦しました。私は小論文や面接形式の受験を体験したことがなく、周りのペンが進む音やスラスラと質問に答えている友達の声聞いて「自分、全然できなさすぎ!!」と焦りました。そして、同じ教科を受験する友達はみんな英語が得意で、英語が話せない自分に危機感を抱きました。

そこで、何となく続けていた試験対策を徹底的に切り替えました。まず、オンライン英会話に登録して、1日25分、教育実習期間中も英語を話す練習をしました。論作文と面接練習に関しては「個人相談の予約数で歴代1位になる」ことを目標に、1週間に1回、2次試験直前は週に2回予約をしました。予約をしまえば後はもう練習するだけなので、面倒くさがりな私にとって良いモチベーション作りになりました。

個人相談を有効活用する

3年の1月から3月までは論作文添削とプチ面接練習、4月からは本格的な面接に変わり模擬授業や場面指導の練習も加わりました。書いた論作文は60枚以上、予約した個人相談は34回でした!

論作文は講座で用いたテーマや川崎市のありったけ

の過去問に挑戦しました。その中から特に自分が苦手なテーマを、時間を置いてから書き直して少しずつ苦手を潰していきました。何枚も書いていくうちに自分がよく使うフレーズや策などが固定化してくるので、それらを上手く用いて論作文の質を安定させていくことができました。戸塚先生が押しくださる武将スタンプがどんどん豪華になっていくのが毎回の励みになりました！

模擬授業/場面指導はとにかく「これが本番」と思って挑みました。事前に配られている要項をしっかり読んで、テーマ設定・時間配分・黒板の使用など基本のルールを厳格に守ることを意識しました。教育実習後から指導のイメージがしやすくなったので、自分の過去の経験からクラスの状態を設定すると雰囲気を作りやすいと思います。先生から助言を貰うのももちろん良いことですが、他の受験者や教授と全く関係のない友達に見てもらおうことで新たな課題を見つけることもできました。

おわりに

タイトルの「努力はウソをつく、でも無駄にはならない」は羽生結弦選手のインタビューからの引用です。よく「努力は報われる」という言葉を耳にしますが、私はあまりこの言葉を使わないようにしています。なぜなら、必ずしも頑張りとは結果が比例するわけではないからです。私自身、なかなか英語能力は上がらなかったし、面接や模擬授業を沢山練習しても自分が納得できるような状態に上げることができませんでした。長く続くスランプから「もう頑張ってもあまり意味ないんじゃないか」と思うこともありました。しかし、諦めなかったからこそ試験当日は全てを出し切れたし、最終的に合格をいただくことができました。

試験の合格ももちろん大切ですが、試験が終わった後で後悔がないように、「努力の正解」を一日でも早く見つけることが大切だと思います。

教員採用試験を終えて

Y.S. (文学部日本文学科 4年)

1. はじめに

私は今年度、横浜市公立学校教員採用試験・中高国語を受験し、合格をいただきました。ここでは、主に教員を目指したきっかけや2次試験対策として行ったこと、本番直前の過ごし方について述べたいと思います。教職を目指すみなさんのお役に立てれば幸いです。

2. きっかけ

私が教員を目指し始めたのは、正直いつからなのかははっきり覚えていません。少なくとも小学3年生の頃には何となく「先生になりたい」と担任の先生に話し

ていたようでした。私は小学生の頃からずっと学校の先生方が好きで、両親の次に身近な大人として慕っていました。そんなぼんやりとした「憧れ」が確かな「夢」へと変わったのは、中学1年時の担任の先生との出会いからでした。新任でありながら生徒たちからの信頼が厚く、何事もまっすぐなT先生に、何度も救っていただきました。それから10年経った今でも、T先生のような、生徒の心のよりどころになれる教員を目指し続けています。

またもう一つ、教員を志望する気持ちを強めたのが、大学2年生の秋学期の出来事でした。家庭のことなどプライベートの問題で不安や悩みが強くなり、学業の継続が難しくなっていました。それに伴い1年間休学する中で、本当にこのまま教員を目指すべきなのか、そもそもこのまま大学に在籍してよいのか、悩みに悩みました。けれども周りの友達や先生方、母、本当にたくさんの方々に支えていただき、この経験を自身の強みとして教員の仕事に活かしていこうと決意することができました。

3. 試験対策

横浜市の採用試験は他の自治体と同じように、1次試験と2次試験の2段階になっています。1次試験では一般教養と教職教養、専門科目の筆記試験が、2次試験では場面指導を含む個人面接と小論文、模擬授業の試験があります。なお、集団面接はここ数年コロナの影響で中止になっています。

試験対策として行ったことについて、まず個人面接では、横浜市指定の面接カードを中心に、自分が話したいこととそれに対して想定される質問をたくさん考え、どんどん深掘りしたものをノートにまとめていました。場面指導では、戸塚先生からもご指摘があったのですが、とにかく数をこなして恥じらいを捨てるようにしました。また、場面指導のテーマ集を買って出題例や指導上のポイントを学び、実演に落とし込むようにしました。

小論文については、講座や面談で何度も文章を書き、戸塚先生に添削をしていただきました。はじめは書き終えるのに途轍もなく時間がかかり心配されていましたが、「時間をかけてもまずは書いてみるのが大事」というお言葉のもと、練習を重ねました。結果として、今年はお題が事前に出题される形式となったため、時間に追われる心配は無くなったのですが、約10ヶ月間、論文修行をしていただいたおかげで論文でのポイントをおさえ、本番では満点をいただくことができました。

模擬授業では、講座や面談のほか、同じ神奈川県を受験するメンバーで集まり練習をしました。どのようなテーマでも応用できる授業の型を考えるとともに、

場面指導と同様に慣れが必要ということで繰り返し実演練習をしました。教職教養の知識や教育実習での経験を活かし、生徒への細やかな配慮を意識しました。

1次試験対策に関しては大学推薦で免除のため、特記できるようなことは行っていませんので、省略させていただきました。また、さらに詳しい対策方法や本番の流れなどについては、教職課程センターの先生方がつくってくださる自治体別試験対策の資料をご覧くださいと思います。

4. 本番直前の過ごし方

次に、試験本番1週間ほど前から当日までどのように過ごしたか記していきたいと思います。私は、この期間はとにかく心身の健康を保つことを心がけていました。対策としては、主に戸塚先生との面談や小論文の練習、教職教養・横浜市の教育施策などの知識や面談で話したいことの確認などをしていました。新しく何かを調べたり詰め込んだりすることはせず、今までやってきたことを振り返るようにしました。それ以外の時間はYouTubeを観たりお昼寝をしたりと、心置きなくリラックスしていました。当日は12時集合で、少し早めに最寄りのドツールに着き、お気に入りのサンドイッチとココアで腹ごしらえをしました。行きの電車では酔わないように音楽を聴きながら景色を眺め、本番までひたすらんびりと過ごしていました。その結果として、終始落ち着いて試験に臨み、自分の最善を尽くすことができました。「ここまでやってきたのだから大丈夫」という自分を信じる気持ちが、合格への最後のひと押しをしてくれたように思います。

5. おわりに

「夢は見るものではない 叶えるもの」。試験当日に戸塚先生が私に贈ってくださった言葉です。教員採用試験を終えて、無事合格をいただき、ようやく夢への第一歩を踏み出すことができました。支えていただいた方々への感謝を胸に、これから「生徒の心のよりどころになれる教員」という自分の夢を叶え、そして次は生徒たちが夢を叶えられるよう、精いっぱい力を尽くしていきます。

セカンドキャリアへ踏み出す

N.K. (文学部日本文学科卒業生)

〇はじめに

今年度、福岡市教員採用試験(中学・国語)を受験し、合格をいただくことができました。昨年4月より、教職生として教職科目を履修、今年度内の中学・高校国語教諭免許取得を予定しています。

私は現在38才です。この1年半は、私にとって、セカンドキャリア出発に向けた準備期間であり、自己

省察期間であり、自己研鑽期間、および、大切な3人の子どもの成長期間でもありました。

今回は、私の経験を具体的な試験対策とともに振り返ります。私の経験が少しでも皆さんのお役に立つことができれば幸いです。

〇教職を目指すまで

一度法政大学文学部日本文学科を卒業以来、マスコミに就職しましたが、結婚・出産のため、退社。子育てをしながら、調理師免許を取得し、コックの仕事をして8年ほどしていましたが、37歳で一念発起。現在15年ぶりの法政大学の地で、教職生として教職課程を学んでいます。

〇受験までの道のり

出身地ではない福岡市で教員になるためにどうしたらいいのか。まずは免許取得のため、教育実習の内諾を取らなければなりません。私は考えた結果、学校とのコネクションづくりのため、そして、免許取得を目指しながら、実際の学校現場での経験を少しでも早く積むことができるよう、中学校の学校生活支援員へ応募し、去年から福岡市内の中学校の特別支援学級の生徒のサポートを始めました。中学校の現場では、支援の必要な生徒への合理的配慮や関わり方、教職員との連携、対象生徒の一挙手一投足を、記録・分析しました。自分自身が何度も対応に迷い失敗しながら、中長期的に関わって生徒たちと信頼関係を築いていく支援員の経験は、教員を目指す上で大きな糧になり、同時に少しの自信を与えてくれました。たとえ教員免許をもっていなくても、とにかく教育現場に出て、何でも吸収するということが、教員採用試験突破への近道になったと感じています。

そしてこの支援員の経験は、自分の「強み」として、教員採用試験にも生きることになります。

〇試験対策

福岡市の教員採用試験は、1次試験は筆記試験「教職教養・一般教養」「専門教養」、2次試験は、「模擬授業」「個人面接」となります。

履修の都合で、急遽、採用試験にチャレンジすることになったため、1次試験対策を試験の4か月前から始めるという無謀な挑戦でした。すがるような気持ちで、教職課程センターに電話を入れ、戸塚先生と出会い、励まされ安心したことは、今でも鮮明に思い出されます。

筆記試験に関しては、予備校や模試に行く時間も経済的余裕もなく、過去問題と参考書、YouTubeを駆使しました。

とにかく時間がないために、真っ先に福岡市の過去問4年分を繰り返し解きました。「教職教養・一般教養」については、教育法規を重点的に確認しました。

100%正解を狙う必要はありません。1問に掛ける時間は2分、ペース配分が大切なのは、大学受験と同じです。専門教養に関しては、国語のほか、学習指導要領の教科目標と、改訂箇所を暗記に勤めました。

2次試験は、個人面接と指導案作成、模擬授業。

自己PRシートづくりにおいては、福岡市第二次教育振興基本計画の「めざす教員の姿」を意識して作成しました。しかし、添削いただいた戸塚先生に、「ありきたりであなたが見えない」とご指導をいただいたのです。経験を美化し、採用先に迎合するような自己PRでは、印象には残らないと学び、「教員の母の背中」「中学生の保護者としての視点」「仕事での新人育成の経験」「子育ての失敗談」を活かし、私にしか作れない自己PRシートを作成しました。最初は、教師像が漠然としていました。しかし、さまざまな他者の捉え方に触れ、自問自答を続けると、核となる考えが出来上がっていきます。時間のかかる作業です。正解を探すのではなく、自分が納得できる教師観を探し、それを言語化するための、腑に落ちるような表現・ことばを自分のものにしてください。

一方で、私の一番の強みである「学校生活支援員の経験」は、履歴書に記載してあることから、面接で必ず話題に上がるであろうと踏み、敢えて記載しないことにしました。面接官に前置きを渡したくなかったためです。

模擬授業では、中1の2学期の単元が試験課題だったので、「夏休み明け、9月14日(水)体育の後の5時間目」と状況設定し、導入部に単元へ繋ぐ話題として活かしました。生徒に見通しをもたせること、指示後に間をつくることを心掛けたり、発問に対して不正解の回答へのリアクションを入れたり、まるで学校現場にいるような臨場感を大切にしました。

○最後に

面接官は、受験者の人間性を見ています。今は自分に自信がなくても、受験勉強を通じて、あなたの教育への理解度や教師観及び人間性は、磨かれていきます。自分の可能性を諦めず挑戦してください。そして支えてくれる方への感謝を忘れずに、また、その方々へ、合格の報告が無事に届くことを願っています。頑張れ法大生！

教員採用試験について

K.H. (スポーツ健康学部スポーツ健康学科4年)

初めに

私は、令和5年度採用、東京都の中・高共通保健体育科の教員採用試験に合格しました。ここでは、教員採用試験に向けて、私が行ってきた対策等をお伝えし

ます。少しでも参考にいただければ幸いです。

1次試験について

～教職教養～

マークシート形式 試験時間：60分 問題数：25問

・対策

大学3年の11月頃から「教職教養の要点理解」を用いて、全体の流れを把握した。3年の春休みに入ったぐらいから、「過去問」を解き始める。しかし、東京都の問題は、穴埋めのような問題ではなく、5つの文章の選択肢から正解の文章を選ぶ問題形式であるため、単語を覚えるだけでは正解に辿り着ることができない。そこで私は、「教職教養教員採用試験 合格問題集」も加えて勉強した。このテキストは文章の1問1答形式であるため、東京都の問題と似た形で勉強することができた。そのため、3年の春休み以降は「過去問」と「教職教養教員採用試験 合格問題集」を繰り返し解き、わからない単語や文章が出てきたら、「教職教養の要点理解」で調べるというスタイルで行った。

教職教養の問題では、必ず答申や東京都教育委員会の施策などが出る。ネット等で最新情報を調べ、目を通しておくと良いだろう。

～専門教養～

マークシート形式 試験時間：60分 問題数：25問

・対策

体育分野の問題は、スポーツのルールが多く出るため、「ステップアップ高校スポーツ」でルールを覚えた。保健分野は、保健の教科書で用語を覚えたり、保健に関する最新のデータ(薬物や交通事故、性病など)を調べたりして、対策を行った。

体力テストの動向や体育や部活動による怪我の状況なども出題されるため、調べておく必要がある。

～小論文～

試験時間：70分 文字数：910字～1050字以内

・テーマ(2022年度実施) AかBどちらか一方を選択

A 個に応じた指導の充実

B 多様な考えを認め合い、合意を目指して話し合う態度の育成

・対策

東京都の小論文には書き方があり、導入・展開(具体的な方策を2つ)・結論と言う書き方をまずは身につける。これを身につけるためには、ひたすら繰り返し小論文を書いていくしかない。そして、先生方に添削してもらい、書き方の癖を直し、正しい言葉遣いで書けるまで何度も修正することでより良い小論文を書けるようになる。どんなテーマにも対応できるようにあらゆるテーマに関する小論文を書き、自分の考えを確立しておくの良いだろう。

2次試験について

～集団討論～

面接官 3人 受験者 5人 時間：約25分

・実施方法

始めに2分間、指定されたテーマについて各自の考えをまとめ、挙手制で答えていく。

・対策

大学で実施される講座に参加し、場数を踏む。4つのテーマは、1次試験合格した受験者に対して、後日送られてくるため、当日までにテーマに関して自分の考えをまとめておく。また、友達と集団討論の練習をすることで、友達の意見を聞くことができるため、良い意見は自分の意見に付け加え、より良い考えを確立しておく。

集団討論を行う際に気をつけるポイントが2つある。1つ目は、相手の意見を否定しない。集団討論では、協調性があるかどうかというのが評価の一つとしてあるため、否定してしまうと協調性に欠けると見なされる可能性がある。2つ目は、相手の意見を聞くこと。当たり前のことではあるが、試験当日は緊張して、自分の世界に入ってしまう可能性があり、相手の意見を聞かずに、自分の意見だけ言ってしまうということに陥ってしまう。そのため、相手の意見を踏まえて自分の意見を伝えることが重要である。

～個人面接～

面接官 3人 受験者 1人 時間：約30分

・実施方法

面接官3人がそれぞれ10分ずつ質問する。(以下、実際にされた質問の一部)

面接官①(面接カードについて)

- ✓ 教師を志望した理由
- ✓ 大学時代頑張ったこと
- ✓ 教育実習で学んだこと
- ✓ 部活動で苦労したこと

面接官②(指導案について)

- ✓ この単元と学年を選んだ理由
- ✓ 重要視したい授業は何時間目か(理由含む)?
- ✓ ある生徒がピアノを習っているため、手袋をつけて授業に参加したいと言ってきた。どのように対応するか?

面接官③(場面指導)

- ✓ 体臭がキツイ生徒がいます。どのように対応しますか?
- ✓ 顔にあざがある生徒がいます。どのように対応しますか?
- ✓ ある生徒からいじめられているという相談をされました。どのように対応しますか?

・対策

過去問などを利用し、質問に対する答えを用意しておく。答えはなるべくコンパクトにまとめ、短く面接官に伝えることを心がける。そして、友達や先生とたくさん練習をし、話し方、答えの内容、目線などを指摘してもらい、面接の完成度をあげる。

～実技試験～

・実施種目

- ①ダンス ②跳び箱 ③バスケ ④水泳
- ⑤剣道 ⑥ハードル

・対策

種目については、毎年変わるため最新情報を常にチェックしておこう。私は、大学や母校の学校、総合体育館などで実技試験に向けた練習を行った。実技に関しては、できる、できていないという観点ではなく、生徒に教えられることができるかが重要であるため、基本に忠実に行うことが最も重視する点である。実技書をよく読み込み、実技書に書いてある通りに技ができるように練習しよう。

最後に

教員採用試験を受けるにあたって、やっておくべきことをお伝えします。それは「学校現場に携わる」ということです。私は、大学2年生の終わり頃に、大学生の内に学校現場に携わることができる機会は教育実習しかないと思いました。たった3週間しか学校現場に携わらずに、教員になるのは不安があると思うとともに、学校現場が今、どういう状況なのかを知る必要があるのではないかと思います。教員になる前にもっと学校現場に携わるべきだと感じました。そこで、私は母校の中学校に電話をし、体育の授業のサポートをしたいと伝え、ボランティアとして体育の授業に携わることが出来ました。私はこの経験のおかげで、教師のやりがいや生徒と関わる楽しさを肌で感じる事が出来ました。また、個人面接の際に、ボランティアを通して学んだことを話すことができ、自分の武器となりました。ぜひ、皆さんもどのような形でも良いと思うので、学校現場に携わって頂きたいと思います。教員採用試験は苦しい戦いではありますが、今からできることをコツコツとやり、最後まで諦めなかった人が「教師」になれると思います。

応援しています！頑張ってください！

合格という夢のスタートラインに立つために

R.T. (経済学部現代ビジネス学科4年)

1. はじめに

私は、今年度、神奈川県相模原市の中学校社会科の教員採用試験を受験し、合格を頂くことができました。受験するにあたり、私は法政大学から大学推薦を頂き、

その推薦制度を使って受験しました。私の体験記が、ともに教師を目指す同志である皆様の力になれば幸いです。

2. 時間を有効的に使うために

相模原市の1次試験では、専門科目をはじめ一般教養・教職教養が受験科目に設定されており、中には小論文を課す自治体もあります。試験までには教育実習や普通の大学の講義など、すべきことが多くある中でも着実に知識を身につけなければなりません。そこで私が意識したことは主に2つです。

a) すきま時間を使うこと

例えば、電車で移動している時間やアルバイトの休憩時間など、少しでも時間があれば試験の勉強をしていました。はじめは、らくらくマスターなどの本を持ち歩き、それを使って勉強していましたが、移動中など両手が塞がってしまうときや本を開くことが面倒になってしまうときがあり、なかなか習慣化することができずにいました。そこで、本ではなくより身近なスマートフォンを使っての学習に変えてみました。「教採対策ブログ」という動画をYouTubeで見つけ、その方の動画を見ながらすきま時間に勉強していきました。動画での勉強はとても手軽であったため、100近くある採用試験に関する動画を何周も視聴することができ、着実に知識を身につけることができました。

b) 自分の「やる気スイッチ」を見つけること

また、週末など、長時間勉強できる日には集中して継続的かつ効率的に勉強する必要があります。そのため仕組みづくりとして、学びやすく、楽しいと思える勉強方法を見つけることが重要です。私は動画を見て自分なりにノートにまとめ、とにかくたくさん書いて覚えることが好きで、様々な方法を試す中で自分の「やる気スイッチ」を見つけ、長時間継続して集中して机に向かうことができました。加えて、共に教員採用試験を受験する友人と一緒に勉強する時間を増やしたことで、自分の弱点や知らなかった知識を知ることや共に切磋琢磨することができました。

これら2つを意識したことで、自信を持って1次試験に臨むことができました。

3. 今後の教師人生を豊かにするための時間

2次試験の試験内容は、7分の模擬授業と約40分間の個人面談でした。1次試験が終了してから約1ヶ月という短い期間の中で、私が2次試験対策で最も意識したことは主に2つです。

a) 自身と向き合うこと

2次試験において、指導案や志望理由書の書き方や面接（話し方、身だしなみ）の練習など、合格するためのテクニックを練習することも非常に重要です。しかし、それよりも重要なのは自分と向き合い、自分な

りの理想の教師像を描くことです。模擬授業や面接では、受験者がどのような思いで教壇に立ち、そのためにどんな授業や教育をしていきたいのかを具体的かつ明確に伝えなくてはなりません。そのために、試験対策のためだけでなく、日頃から、自分自身と向き合い、理想の教師像について考えることが、今後の教師人生にとっても非常に重要であると感じました。

b) 多くの人を頼り、共に支え合うこと

これに限ったことではないですが、特に2次試験対策では、多くの人に質問や相談に行く行動力が必要です。私は、とてつもなく教職課程センターに大変お世話になりました！自己アピール書の添削や面接練習、模擬授業の練習など毎日のように足を運び、練習だけではなく、今後の教育や目指す教師像などについて先生方や教師を目指す友人と共に話すなど、様々なことをさせていただきました。実はその一つ一つの会話が、面接でどんな問題にも答えられるための練習になっていたことは、面接が終わってから気がつきました。面接では教育に関することについてとても深い所まで質問されます。そこで大事なのは、多くの人を頼って練習をすることや、軸となる部分を他の人に話す（アウトプットする）ことで客観視し固めていくことです。教職課程センターでの活動は今後の教師人生において非常に重要な時間でした。また、センターだけではなく、共に教師を目指す仲間たちと、互いが互いを見合うことで切磋琢磨し合うことも非常に重要です。

4. おわりに

今回の体験記のタイトルに「スタートライン」という言葉を使ったのは、これまでに書いた教員採用試験対策の全ての活動は、合格のためではなく、これからより良い教師になるための準備であるからです。有効的な時間の使い方に関しては、これから、教師という立場で子どもたちに伝えていかななくてはなりません。また、自身と向き合うことや他人との関わりの中で教師としての軸や理想像を明確なものにしていくことは、今後の教師人生を豊かなものにし、より良い教育を実現することに繋がってくると思います。これを読んでくださった皆さんが、教員採用試験合格までの道のりの中で、合格を目標にするだけでなく、その先の未来を見据えた試験対策をし、夢へのスタートラインに自信を持って立てるよう願っています。みなさんと一緒に、教師として子どもたちのより良い未来を共に作れることを心から願っています！

教壇に立つ自分を想像して

G.M. (社会学部社会学科 4年)

はじめに

教員採用試験を終えての自身の振り返りということで今回の経験談のお話を受けたわけですが、私は、教員採用試験自体の勉強に100%の力を注いで励んでいたか、というところではないと今、振り返ってみると感じます。では、どんな対策をしていたのか。私は幼いころから教師という職業を目指し、大学受験も教師になることを見据えていました。このことを踏まえて、私の報告は絶対に教師になることを前提に執筆させていただきます。

I 教員の現場を見に行く

私たちの学年は二年生になったときにコロナ禍に入り、外出が難しくなり、大学での学び方にも「リモート」が確立され、変化が訪れました。当時、世の中も私の心も無気力になっていたわけですが、大学の授業が無いなかで「何もしないのはもったいない」と思い、一年生の時に、宿泊体験学習のボランティア活動でお世話になった小学校に連絡をし、学生ボランティアとして週二回活動することにしました。これが私の採用試験の対策の始まりです。校種は異なるが、学校現場に身を置き、子供たちと関わる練習をしていくことは重要です。当時の自分は重く考えてはいませんでしたが、先生としてのふるまいが重要視される二次試験の対策において最短距離かつ最大効力の行動だったのではないかと今では思います。コロナ禍で誰かの経験談や何の勉強から始めるかの情報収集が難しい中で、小さな一歩だったと私は感じています。

II 採用試験筆記対策

筆記の対策は本格的に行う時期はかなり遅かったです。ちょうど合格者の話を聞く会を終えたころから始めました。ただ、参考書を買う時期は早かったです。三年生の春には購入していました。参考書を買って本を読む感覚で日々を過ごしていました。私は大学受験で参考書をたくさん買って失敗したので、採用試験では一ジャンルに決めて対策を行っていました。また、筆記試験は傾向が自治体ごとにはっきり分かれています。選択形式なのか、筆記形式なのかから始まり、一般教養試験はあるか、問題出題範囲の傾向まで分析することをお勧めします。また、私は本命の横浜市に加えて、静岡市、茨城県とほかの自治体も受験しました。筆記試験に関して言えば、様々な自治体を受けることは悪くないと思います。なぜなら、試験が練習になるし、実際に自治体の試験内容で同じものが出たこともありましたが、他自治体の試験を受けることの大きなデメリットもありました。それは後述します。

III 教育実習を全力で頑張る

大学四年生になり、教員採用試験対策も直前になってきたころに教育実習が行われるのは、ご存知かと思います。教員採用試験の一次試験は、七月ごろなので、試験の直前一か月を勉強の時間に割けなくなるのは、困ると思います。私も不安でした。ただ、これを「きつい」と捉えるか、実習こそ有意義な対策だと捉えるか、で時間の使い方が変わると私は感じました。本気で採用試験に合格したいなら、教育実習は全力で取り組むことをお勧めします。実際に教壇に立ち、授業を行うことで、模擬授業の対策にもなるし、場面指導で指導を行うことがあるかもしれません。私は教育実習を機に、リングノートでアドバイスや、心構えとして必要なことを書き残すようにしました。二次試験に進んだ時にはこのノートを基に面接で話すことを考えました。実際の現場で「先生として」三週間を過ごすことができるため、新しい発見や気づきがたくさんあるはずですが、私は、この教育実習が、今まで力を入れてこなかった二次試験の対策の指針になったと思います。

IV 二次試験対策

二次試験の対策は、毎日やることを明確に決めて行うような計画性はありませんでした。毎日の積み重ねが重要に思います。大学の二次試験対策のイベントに参加したり、前述の学校ボランティアや教育実習で得たことをまとめたりしていました。ただ、最初は漠然と「教師になりたい」と思っていたイメージを具体的に「こんな指導がしたい」「こんなクラスにしたい」「あんな先生になりたい」と考えられることが、二次試験では必要だと思います。そして、自身が教壇に立って生徒と会話する姿を面接官に想像させることができる話術も必要です。教壇に立つ自分を想像して、「教育」に関する現代の問題に対する自分の考えを深めるといいと思います。

V おわりに

教員採用試験の対策は、自身の教師としての理想の姿を、ひたすらに考え、実践し、行動で、言葉で伝えることだと思います。その「理想」が、間違っただけでないのを確かめるため、教師としての経験をつけるためにも、出会いは大切にしておいてよかったです。そして、出会った現場の先生、同期など、存分に頼ってよかったですと感じています。

ここまで自身の今年の教員採用試験の経験を書かせていただきましたが、私の教員採用試験は本命の地元、横浜市では採用をもらえず、満足のいくものではありませんでした。来年度からは、採用をいただいた茨城県で教師として働きます。私は、小さいころから「教師」になることが夢だったので、後悔はありません。大学

卒業と同時に自身の力で生きることを含めて、教師としての人生においても、五歩進んで帰ってこられるように、まずは一歩踏み出してみようと思います。

教員採用試験を終えて

R.T. (経済学部経済学科4年)

1 はじめに…

私は令和5年度、埼玉県高校地歴の教員採用試験に合格しました。ここでは、試験に向けての勉強方法等を話したいと思います。来年度受験を考えている方に、少しでもお力になればと思っています。

2 二つの出会い

私自身、中学の頃から教員を目指していました。大学受験でも教員になるために教育学部を多く受験しましたが、思うようにはいかず経済学部に入ることになりました。

教員になろうとは思っていたものの、コロナの関係で、満身に教職の授業を受けられなかった中で、3年生の春、多摩の教職課程センターの前田先生に出会いました。1から小論文というものを教わり、添削もたくさんしてくださり、今の自分に何が足りないのかを把握することができました。その後、3年の12月の埼玉県教員説明会で、市ヶ谷の教職課程センターの戸塚先生に出会いました。1発合格は無理だと考え、不安が高まっていた自分に鼓舞をしてくださり、その後の講座でもお世話になりました。この2人に出会えたからこそ、教員一本でやっていこうと思えたとともに、試験を1発合格できたと思っています。本当に感謝でいっぱいです。

3 試験に向けて

ここからが大事です！まず、優先してやるべきことは、受験自治体の問題を見ることです。これを見た方は、今、自治体の問題を必ず見てください。

私が受けた埼玉県の問題は、一次試験に専門試験と一般・教職試験のマーク問題があります。これは、自治体によって全く異なります。例えば、東京都では、一次試験に小論文があり、逆に一般教養がないです。また、地方の自治体では、記述の問題が多めということもあります。志望する自治体がどのような問題を出しているのかをしっかり把握するとともに、もし、教員になれるのなら、どの自治体でもいいと思うのなら、自分が得意な問題形式の試験がある自治体を選ぶのも手です。

また、受験の日程も自治体によっては異なります。近年、茨城県以外の、関東は7月の第二日曜（今年は7月10日）に試験があり、併願で受験をすることはできません。4月ごろには掲載されるので、ホームページ

等で確認しましょう。

4 一次試験 (埼玉県 高校地歴)

(1) 一般教養・教職教養 一般 26問 教職 18問
全て選択問題です。

- ・一般教養は、全教科から幅広く出ています。過去問から出たものもあるのでしっかりと抑えておきたいです。

- ・教職教養は、穴埋め4択問題が基本です。最初の6問は、超基本的な法律だが、後半は、生徒指導提要や障害者基本法等、さまざまな資料から出てくるので難しいです。二次試験の面接対策をしながらしっかりと教育関連の資料を読み込む必要があります。

(2) 専門試験 学習指導要領 10点 地理・世界史・日本史 90点 (30問×3点)

- ・全て4択問題。

- ・地理・世界史・日本史は、センター試験（共通テスト）レベルだが、どの教科も同じ配点なため、受験で勉強した教科や専門としている分野以外でいかに点数を取れるかが鍵です。

自分は、世界史を大学まで触れていなかったもので、試験勉強の中でかなりの時間を費やしました。三年生のこの時期には勉強をはじめたため、本番でも良い点数を取れました。

5 二次試験 (埼玉県 高校地歴)

二次試験では、個人面接・論作文・集団面接・集団討論をやりました。二次試験の対策に関しては、多摩・市ヶ谷両方の講座を活用して、3年生の12月ごろからしっかりと行なっていました。内容等の詳細は、課程センターで、わかると思うのでぜひ活用してみてください。

・個人面接

しっかりと自己分析をすることが大事です。就活等で面接練習を既に行っていると有利かも知れません。していなくても、コツコツ暗記するほど練習を続けていれば本番に自信の成果が出ると思います。私は、結論から言うことを心がけていました。試験官が、長くて??にならないように聞かれたことを簡潔に結論から話しましょう。また、一次試験が終わってからの対策では遅いと思います。願書を出すときに、志望理由等を書く欄があるため、志望動機や自己PR等は、4月には固めておきたいです。

・論作文

小論文は、各自治体・校種で文字数等が決まっています。私は、多摩・市ヶ谷の対策講座に参加し、添削をしてもらいました。書き方すらも危ういところから始まりましたが、1週間に1題をやるうちに、自分でもコツを掴めるようになりました。

書くときには、すぐに書き始めるのではなく、与えられたテーマの背景や現状等を自分の頭で考えてから、自身の対応策を二つ考えるというスタイルでやっていました。

・集団討論・面接

自治体や校種によってバラバラですが、私は、集団討論と集団面接を行いました。集団討論では、小論文のようにテーマについての背景や現状を考えて、話すようにしていました。相手の意見を否定しないことが大事です。集団面接は、埼玉県の高校でしか行われないため、あまり対策ができなかったのですが、他者の意見を取り入れつつ自分の意見に取り込めるようにするのが大変でした。

6 おわりに

一次試験、二次試験は別物ではなく、つながっていると考えています。小論文で書いていたテーマが筆記で出たり、集団討論のテーマや対策に使えたりします。教職課程センターをうまく利用し、友達と協力しながら頑張りましょう！

夢を実現するために

T.W. (社会学部社会学科 4年)

はじめに

私は今年度、東京都教員採用試験を受験し、中・高共通社会（公民）において合格をいただくことができました。私は幼いころから教員になりたいという「夢」をもっていました。その夢をどのようにして「実現」していったのかをここでは述べていきたいと思えます。これを読んでいる方々も教員になるという夢をもち、日々勉強に励まれ、多くの経験を積まれていると思います。私がこれから綴る体験記が皆さんの夢を叶える為に少しでもお役に立つことができれば幸いです。

1、教員になぜなりたと思ったのか

私が強く教員になりたいと思ひ、その夢を実現したいと考え始めたのは中学校の頃でした。その頃の私は不登校になり、生きる意味を見出せなかった時期でした。そうした中で、不登校の生徒が通う相談学級という教室で、恩師とも呼べる先生と出会いました。その先生はどんな時でも私を励まし、そして全力で私に向き合ってくださいました。私はそうした先生の指導のおかげで、もう少し頑張ってみようと思ひ、通常の学級に復帰することができました。私は、そうした経験から、生徒が少しでも前を向けるような、そしてその生徒の支えとなる言葉を生徒の心に残していくことができる教員になりたいということ強く思うようになりました。これが私の夢の原点です。

なぜここで「夢」の話をしたのかというと、それは面接の際に必ず聞かれるから、というだけではなく、教員採用試験という長く険しい戦いを乗り切り、教員になった際にも必要な軸を早い段階で明確にしておくことが非常に大切であると、今回の受験を通して強く感じたからです。これは、教職課程センターで行われる小論文講座の最初に前田先生から教えていただきました。これを読んでいる方々もそれぞれ教員としての「夢」をもっていると思います。その夢を叶える為にも、なるべく早い段階でその夢を言語化し、明確に他者に伝えられるようにしていくことが重要だと私は思います。

2、教員採用試験について～現実を知ることの重要性～

教員採用試験に合格するためには、前述した夢をもつだけでなく、教育現場の現実、教員採用試験の仕組みや過去の状況を踏まえて対策をしていくことが大切だと自身の経験から感じました。「現実」を的確に把握することによって「夢」に近づきます。ここでは1次と2次に分けて私が行った対策を紹介したいと思います。

2-1 1次試験

東京都の1次試験は教職教養、専門教養、小論文で構成されています。社会科の1次試験は倍率が高いこともあり、8割程度を要求されるため、多くの時間を割いて対策をしました。東京都の1次試験で最も重要なのは、足切りを受けないことです。どれほど高得点をとっても、致命的に苦手な部分によって不合格になってしまうこともあります。ですので、勉強をする際にはバランスを重視して勉強しながら、何か一つ、他の受験生と差をつけられる科目を磨いていく勉強法が重要であると思います。私は3年の夏ごろから対策を始めていきました。

(1) 教職教養

教職教養についてはとにかく過去問を分析し、どのような範囲が出るのか、逆にあまり出題されない範囲はどこなのかという分析を行いました。東京都は幅広い分野から出題されることが分かったので、参考書を何周も読み込み、合格ラインを大きく超えることを目標に勉強をしていきました。東京都の教職教養は選択式ではあるものの、難しい問題も多く、参考書の細かい部分や東京都教育施策大綱、東京都教育ビジョン、教育法規や最新の答申などの細かい部分に時間をかけて勉強を進めていきました。これらの勉強によって12月の過去問で8割、本番では高得点を取ることができました。

(2) 専門教養

専門教養については、大学受験時代に使用した政治経済・倫理の参考書を基本に、12月末から勉強を開

始しました。専門教養試験の自身の選択する問題は、センター試験と同程度のレベルであり、センター試験の過去問も使用しながら勉強していきました。また、専門教養の共通問題では、高校受験で使用する問題集を中心に勉強していき、合格ラインに到達するように仕上げていきました。

(3) 小論文

私が1次試験で最も苦労したのは、小論文です。小論文は先ず型を定着させ、その上で、論述を進めていく必要があるのですが、小論文の型がなかなか定着できずに苦労しました。本格的に対策を始めたのが2月からで、始めるタイミングが遅かったと思っています。このような失敗を基に、皆さんは早めの段階から教職課程センターに相談し、対策を始めていく方が良いと思います。試験が近づいてくると自身で問題を作成し、制限時間内に書き切る訓練を多く繰り返し、書いたものを先生に添削していただくのをとにかく繰り返しました。小論文対策は、とにかく数をこなしていくことが重要であると思いました。

2-2 2次試験

まず、東京都の2次試験では集団面接と個人面接の2つで評価されます。1次試験の結果は全く反映されないので、1次試験が終わった段階ですぐに気持ちを2次試験に切り替えることが重要になると感じました。2次試験の対策は1次試験が終了した後に開始しました。面接対策では軸となる回答に、「なぜそう考えたのか?」、「このような場合にはどうするか?」という問いを自分自身で問いかけて対策を進めていきました。

面接全体で気が付いたことは、他の受験生との差別化をする必要があるということです。東京都の2次試験では、午前5人、午後5人の計10人の相対評価で決定します。つまりは、自身がどれほど良い面接を行っても他の受験生が良ければ不合格となってしまうということです。さらに、2次試験からは講師経験者などが受験するため、倍率よりも体感としては厳しい戦いであったというのが実感としてありました。勿論、全て他の受験生に勝つということは難しいですが、自身が絶対に自信のある分野を一つ磨いておくことで、他の受験生と差をつけられるのではないかと思います。また、現役の校長先生や教職課程センターの力を借りて、客観的に自身を見つめなおすということも必要になっていきます。自分の面接を他人に見られるのは恥ずかしい部分もあるとは思いますが、積極的に行動することが大切だと強く感じました。

おわりに

以上が私の教員採用試験の合格体験記です。今振り返ると、教員採用試験の受験は友人が民間企業で次々

に内定を決める中、辛く、険しいものでありました。そのような中で乗り越えることができたのは、教採を受験する仲間、アドバイスをしてくださった先生方、家族の存在があったからだと感じています。これから受験する皆さんも決して一人ではなく、自分のことを考えてくれる人が大勢いると思います。積極的にそのサポーターを頼ることが合格への近道になるはずで、この合格体験記が皆様の夢を実現する為に少しでもお力になれば幸いです。心から応援しています。

教員採用試験合格に向けて

K.M. (スポーツ健康学部スポーツ健康学科4年)

1. 初めに

この度、神奈川県・中学校・保健体育科の教員採用試験に合格しました。神奈川県教員採用試験を受験するにあたって、私が取り組んだこと、意識したことを書いていきたいと思っています。少しでも参考になれば幸いです。

2. 一次試験について

神奈川県の1次試験の受験科目は、教職教養と一般教養(100点満点)、専門教養(100点満点)でした。専門教養は、学習指導要領から出題されます。とにかく、過去問から傾向を分析し、細かいところまで読んで勉強しました。専門教養については、この方法が1番良いと思います。

一般教養については、私は、12月ごろから参考書を使って勉強していました。一般教養については、範囲が広すぎるので、比較的点数をとりやすい、数学、英語、理科などを中心に勉強しました。教職教養については、他の自治体でも、似たような問題が出題されていると思うので、とにかく問題を解いて覚えることが大切になると思います。

3. 二次試験について

神奈川県の2次試験は、小論文、個人面接、模擬授業、実技試験があります。一次試験の合格発表から時間がないので、1次試験終了後すぐに準備を始めた方が良いと思います。

【小論文】…1次試験の会場で実施されます。配点は、他の自治体ともあまり変わらないので、たくさん練習をして書き慣れておくことが1番重要だと思います。

【個人面接】…個人面接は、1番配点が高いです。ほとんど、この面接で決まると思います。主に自分で作成する面接シート、直前に行なった模擬授業、教師としての対応(場面指導)について質問されます。面接シートと模擬授業は、あまり規定がなく、作成することができるので対策がしやすいと思います。場面指導は、少し変わった状況のケースの対応方法について聞

かれるので、様々なケースに対応することができるように準備しておくことが大切だと思います。自分は、友達と、数回練習しました。練習することよりも、自分の中の考えをしっかりと固めておくことが大切だと思います。練習しすぎて、ロボットのように話さないように気をつけたほうが良いと思います。

【模擬授業】…自分の好きな単元を選択して授業ができます。学習指導案をA4、1枚提出して、導入から展開の10分間授業を行います。持ち込み可能なので、フラッシュカードや図、などを使用した方が良いと思います。明確な本時の目標と生徒の学習意欲を引き出す発問の提示がポイントになると思います。どうして、その単元を選択したのか、授業構成で意識した点（アクティブラーニングを意識している点は、どこか）、模擬授業をやってみてどうだったか（自己採点）などを模擬授業後の面接で聞かれるので、準備しておくが良いと思います。

【実技試験】…事前に試験科目、試験内容が発表されます。内容は基本的なものなので、ある程度出来れば差はつかないと思います。選択できるので、自分が得意なものを選択して、生徒に指導する上で、重要なポイントを押さえて、実技ができると思います。（タイム、記録などは、大きく影響しないと思います。）

4. 最後に

一次試験は、過去問から自治体の傾向を掴む、たくさん問題を解き、暗記することが大切です。二次試験は、自分の教員になりたいという気持ちを大切に、自分の考えに自信を持ち、素直な心で望んでいくことが1番大切だと思います。

教員採用試験に向けて

A. T. (生命科学部応用植物科学科4年)

私は今年度、東京都の理科中学校/高等学校の教員採用試験に合格することができました。私の経験が少しでも教員を目指している方の参考になれば幸いです。

1. 教員採用試験の対策について

(1) 試験対策スタート

私が教員採用試験の勉強を始めたのは大学3年生の6月ごろでした。部活動に入っていて1年生から忙しい毎日を過ごしていましたが、気がついたら3年生になっており、勉強を始めなければと焦りを感じていました。部活動と勉強の両立をどのようにしようかと悩んだとき、私は自分について振り返ってみました。私はタスクをこなすことは得意でしたが、自分で計画を立てて物事を実行することは苦手でした。そこで私は予備校に通うことに決めました。予備校に通うことで、

学校側から配布されたテキストに沿って勉強することができ、またオンラインで授業を受けられるため、部活動をしながらでも可能だと考えたからです。実際に隙間時間を上手に活用して勉強することができました。また教育実習を大学4年生の秋ごろに行う予定だったため、他の人よりも生徒とかかわる経験が少ないとも考えました。そこで同時期から中学校の学習ボランティアを始めました。中学校の学習ボランティアでは、実際に授業をしている教室に入り、つまづいている生徒の対応や教員の方のお手伝い等をしました。実際の教育現場に入ったことで、今の現場はどのようなか、また生徒とどのように接したら良いのかを学ぶことができました。このようにして私は教員採用試験に向けた勉強を始めました。

(2) 筆記試験直前期対策

教員採用試験が近づいてきた大学4年生の4月ごろからは筆記試験対策に重点を置き、過去問を多く解いていました。もちろん自分の志望する自治体だけでも良いと思いますが、私はどのような問題形式がきても驚かないように、前年の全国の自治体の過去問を解きました。全国の過去問を解くことで、勉強が足りない分野や問題形式を知ることができ、最後の追い上げができたと思います。小論文対策は大学4年生の3月ごろと少し遅く始めてしまいとても苦労しましたが、教職センターの方が親身になって添削してくださったおかげで無事乗り切ることができました。

(3) 面接試験直前期対策

面接試験対策は1次試験が始まる前、大学4年生の5～6月ごろから始めてはいましたが、本格的に始めたのは1次試験が終わった7月からでした。それまで筆記試験対策ばかり行っていたため、面接試験対策はかなり苦労しました。集団討論の対策は複数人いないとできなかったため、教職課程センター主催の練習会や、同じく東京都を目指す仲間と頻繁に集まって練習していました。実際に仲間とともに練習したテーマが試験当日に出題されたので、練習してよかったと思いました。個人面接の対策は教職課程センター主催の練習会で鍛えました。しかし私は個人面接がとても苦手で、特に「なぜ教員になりたいのか」「東京都を志望する理由は？」という問いについては、最後の最後まで自分に問い続けていました。

2. 試験当日の対応

(1) 1次試験

1次試験の会場は池袋で私は迷子になるだろうと思っていたので、1時間前に池袋に到着し、近くのカフェで勉強していました。当日は試験直前に確認できるように自分でまとめたノートを持っていきました。基本的には1教科1冊にし、確認するものが1冊で済

むように工夫しました。また、小論文ではどのようなテーマが出るかわかりませんでした。教育時事問題が出ると予想し、教育時事の参考書を持っていきました。小論文は実際に教育時事の分野が問われたので、見ておいてよかったと思いました。休憩時間では勉強に集中せず、むしろリラックスできるように教室の外に出て昼食をとり、目をつぶってあれこれ考えすぎないようにして落ち着くよう心掛けました。

(2) 2次試験

2次試験の会場は浅草で、面接試験は直前で詰め込んでも難しいと思い、むしろリラックスしようと思ったので、試験会場の近くのごはん屋さんでのんびり昼食をとってから向かいました。集団討論ではなるべく他の人の意見を聞いてうなずき、意見を聞いた上で自分の意見を述べるように意識しました。個人面接では5人1グループで番号の早い人から面接していきませんが、私は4番目だったため1時間半ほど待ち時間がありました。しかし確認できる資料に制限があったので、自分で作成した単元指導計画を見て、どのようなことを伝えるか考えながら落ち着いて待機していました。個人面接の会場に入ると、3人の試験官の方がいらっしゃって、とても緊張しましたが、教員になったらたくさんの人と関わっていかねばならないことを考えると、自然と頑張ろうと思えて、落ち着いて話すことができました。

3. 教員採用試験を振り返って

私は部活動が忙しかったので、なかなかまとまった時間が取れず、最初から焦っていました。そして教員採用試験の勉強をしていた時は、常に不安でいっぱいでした。しかし、私は小学校の頃から教員になることが夢だったので、教員になりたい、教員になるんだという強い意思をもって、最後まで走り続けました。皆さんも頑張ってください、とは言いませんが、たとえばどこかで挫折したとしても、道はどこかで必ずつながっています。目標があるなら、どうか最後までしぶとく食いついてみてください。諦めない皆さんを応援しています。

最後までお読みいただきありがとうございます。

どうしたいか

O. T. (生命科学部環境化学科4年)

就職先：中央高等学院 (サポート校)

皆さんはどうやって進路を決めていますでしょうか。偏差値が同じくらいだから、近いから、給料が高いから、やりたいことができるからなどなど、様々な理由で決めていると思います。その中でも私は『自分のやりたいこと』を優先して決めてきました。私がこ

れから書くことは、他の合格体験記とは異なると思います。こんな道もあるのだという参考程度に読んでいただけたらと思います。

(1) サポート校って？

初めて耳にする方もいるかと思いますが。通信制高校とサポート校の違いから説明します。通信制高校は、スクーリング・単位認定試験のみ通学する学校教育法で定められた「高校」です。しかしすべての学習を自学自習で行うため強い意志と計画性が必要です。一方でサポート校は、実際に校舎に来て授業を受けます。会社が運営しており、通信制高校の課題の管理、学習面・生活面のサポートを受けることができます。

(2) 中央高等学院にした理由

多くのサポート校は、高校を卒業することが目的であったり、大学進学を目標にしたりしています。しかし、中央高等学院は中でも、社会で生き抜く力・進学のさらに一歩先ということを目標としています。私は中央高等学院が掲げる、この先を見据えた目標設定に納得できたので、ここに就職しようと決めました。

(3) 初めから？

最初から、サポート校の職員になると決めていたわけではありません。当初は、仲間たちと同じ、公立高校の教員を目指していました。しかし、本当に公立でいいのかと自問自答したところ、長く同じ学校にすることができ、よりその学校・生徒に合った授業の展開が可能な私立高校が良いと思い、私立高校志望へと変わりました。

教育実習は母校の私立高校で実施しました。教育実習中は自分の成長を実感でき、とても充実したものでしたが、心残りがありました。それは、母校が私のいたころよりも大きく変化していたことにより、学校になじみにくくなっている生徒がいるのではないのか、ということです。その時、私が在籍している間に友人が3人退学したことを思い出してしまいました。普通の学校に通えない生徒たちは学校に何らかの不満を抱えているか、友人関係の問題が多くを占めていると思います。私はそんな生徒たちにとってプラスの存在になりたいと思い、通信制高校よりも生徒と話す機会の多い、サポート校を選択しました。

(4) 普通って何？

皆さんにとって「普通」とは何だと思いますか。私は「普通」とは、大多数の意見のことだと思っています。サポート校に通う生徒たちは「普通」ではないと思います。何か問題があってサポート校に通うことになっています。さて、「普通」ではないと変でしょうか、悪いことでしょうか。いいえ、変でも悪いことでもないです。それは個性なんです。一人ひとりが可能性の塊なのです。何か秘めているから、周りとの違いを感

じているだけなのです。

(5) 私の体調

私は、緊張しやすく、緊張すると吐き気を催したり、お腹を下したり、貧血を起こしたりします（もともと低血圧ということもありますが）。しかし、周りの人たちはそのことを知りません。体育祭で応援団長をやったり、美術部の部長を務めたり、高校は成績トップで卒業したり、何でもできるように思われています。ですが、その周りの反応は時に重く感じます。『私は完璧でなければならないんだ』と考えてしまうのです。その考えが逆に自分の首を絞めてしまうのです。こうやって今客観的に書いているということは、どういうことか。それは周りに自分は実はこういう人だよということを言えるようになったことです。なぜそうなったかというと理科教育法の授業のおかげです。自分の意見が大事にされる場所、自分を出せる場所であり、いいところ探しなどが私を変えてくれました。

(6) 勉強方法

基本的には専門科目（私の場合は化学）の問題集、一問一答の教職教養を使用していました。そこにプラスで YouTube を見ていました（今も見ています）。内容は、様々なテレビ局が公開している、不登校の子供たちを取り上げたものや障害のある子供たちを診察する歯医者さんなど「普通」ではない子供たちと向き合ういろいろな職業の人たちの働きです。何かメモをするわけではありませんが、頭の中で自分の意見などをまとめたりしていました。

(7) 最後に

自分のやりたいことは自分にしかわかりません。自問自答を繰り返し、真の自分と話してみてください。真の自分と話すためには、友達と話すことが大事です。客観的な意見が得られます。そこから自分はこういう人だったのかと気づかされる部分があると思います。

教員採用試験について

R. K. (生命科学部環境応用化学科 4年)

私は横浜市の理科中学校／高等学校の教員採用試験に合格しました。横浜市立の高等学校は9校しかないため、原則中学校に配属されます。この合格体験記では、教員採用試験を受けるまでの迷いや、合格をするまでに行ったことを書かせていただきます。

【試験内容】

○ 大学推薦で1次試験免除

私は大学推薦をいただき、1次試験は免除になりました。横浜市の大学推薦は「免除者を選考する」となっているため、免除にならない場合もあります。私は、就活をするか迷っていた時期が長く1次試験

の勉強をほとんどしていなかったため、結果が分かるまで不安な日々を過ごしていました。大学推薦に関して自治体への提出物は大学の成績・推薦書の2点でした。自分自身で書くものはなく、辻本先生に面接をしていただき、その内容から推薦書を書いていただきました。その際、自分の教職に対する思いや生かせる経験をすべて話しました。

【教員採用試験を受ける前の迷いと決断】

○ 迷いと不安

私は1年前の夏には教員採用試験を受けるつもりで辻本先生に相談し、1次試験の対策をしていました。しかし、12月に入り、合格体験談を聞いたり周りの同期の就活進捗を聞いたりしていると、「本当に自分は教員になりたいのか」「そもそも教員に向いているのか」と迷いと不安に苛まれていました。

○ 自己分析と他己分析

私は迷いと不安を抱えすぎて、「自分」が分からなくなってしまいました。そこで自己分析と他己分析を徹底的に行いました。特に他己分析ではアンケート方式ではなく、直接聞いたりLINEなどで一人一人と連絡を取り合ったりして自分についての情報を集めました。すると、自分は教員という職業に興味があり、周りからも私は教員に向いているのではないかという結果が集まりました。ここで何となく進路の方向性が定まっていきました。

○ 考えるよりまず行動！

自己分析と他己分析により、少しずつ「自分」を取り戻した私は、「教員になってやりがいを感じられるか」を確かめるために、横浜市のアシスタントティーチャーに応募し、子どもたちと関わる機会を増やしました。そこで、喜ばしい経験ができたため、「この仕事が好きだ!」と思いました。また、学校情報を集め、大学の先生だけでなく今までお世話になった先生方にたくさん相談し「先生になりたい!」と強く思いました。ここで、教員採用試験を受けることを決断しました。

【合格のためにしたこと】

私は、教育実習先に昨年度大学推薦枠で受験し合格した先生がいたので、たくさん情報を共有させていただきました。

○ 模擬授業

模擬授業の対策としては、中学理科三年間すべての単元の導入を考えました。足りなかった点として、練習をほとんどしていなかったことがあげられるので、仲間を見つけてたくさん練習することをお勧めします。

○ 小論文

私は自分で書いたものを、田神先生と齋藤先生に

何度も添削していただきました。結果は満点。小金井スタイルを自分に叩き込み、何度も練習すればおのずと結果はついてくると思います。

○ 個人面接

個人面接は事前に提出する面接カードに沿って行われるため、面接官に質問してほしい点を面接カードに散りばめました。その際、辻本先生に何度も面談していただきました。そして、面接練習にも参加し直前まで練習していました。大学での練習のほかに、友達（就活生）とも面接練習をしていました。自分のことをよく知ってくれている友達は「そこもっとアピールしなよ！」などと喝をいれてくれた大切な存在でした。また、頑張っている仲間への存在はモチベーション維持に繋がりました。

【最後に】

○ 自分らしさを見出すこと

私は、試験を受ける前まで自分に自信を持つことができませんでした。それは「誰とも同じではいけない」とか「みんな自分以上に頑張っているからまだまだだ」と、自分に強く負荷をかけていたことが原因でした。しかし、自己分析や他己分析を進める中で、「1番になる必要はない。トップレベルで戦える何か一つでもあることが強い。」と思うようになり、「自分のペースでひとつずつこなしていけばいい。」と自分の行動に少しずつ自信が持てるようになっていきました。

○ 絶対に一人で戦わず、存在に感謝を

「受験は団体戦だ」とよく言われますが、教員採用試験を受けることは私たちの環境ではマイナーな存在です。そのため、1年前の私のように心が折れそうになることが何度もあるかもしれません。そんなときは、周りの人を頼っていいのです。自分と同じように頑張っている仲間や相談できる人の存在はとても大きいし、心の支えになります。相談できる人は身近に必ずいます。勇気をもって頼ってみてください。そして最後にはどんな結果であっても、支えてくれたことへの感謝を伝えてください。

今皆さんは自分らしさを見出し、頑張ろうとしているといます。全員が、それぞれにとって素敵な結果になることを祈っています。応援しています！

神奈川県教員採用試験

W. N. (理工学部創生科学科 4年)

私は、神奈川県高等学校数学の教員採用試験に合格することができました。採用試験に向けて取り組んだことを記させていただきます。今後教員採用試験を受

ける方の参考になれば幸いです。

1. 一次試験

①専門科目（数学）

協同出版の神奈川県過去問題20年分を中心に取り組みました。私は、3年生の11月中旬～3月に1周目、4年生の4月～教育実習が始まるまでに2周目、7月の一次試験までに3周目が終わるペースで取り組みました。忘れていた単元や苦手な単元は大学受験で使用していた参考書で復習しました。また、先輩から埼玉県と神奈川県の数学は似ていると聞いたので、埼玉県の過去問題も2年分解きました。同じ問題を何周もすることで傾向がわかり、本番でも落ち着いて回答することができました。

②一般教養・教職教養

神奈川県の一般教養と教職教養は、1つ1つの問題のレベルはあまり高くありませんが、出題範囲がとても広いので、全ての単元を押さえることは難しいと感じました。そのため、私はまず過去問題を1年分解き、社会科目と教職教養の正答率が低かったため、その2科目を中心に勉強することから始めました。社会科目は、協同出版の神奈川県一般教養の参考書を使用しました。要点がまとめてあるので、取り組みやすいと思います。教職教養は、YouTubeでわかりやすく、コンパクトに説明している方がいたので、その方の動画を視聴して勉強をしました。通学時間の長い私にとって、動画での勉強は時間を有効活用できとても良かったです。

2. 二次試験

①小論文

小論文の対策は、教職課程センターの先生に指導していただきました。私は、3年生の10月頃から始めました。論文練習をする中で、小論文で大切なことはテーマに対する対策だと思ったので、ノートにテーマとそれに対する対策をまとめました。ノートにまとめたことで、頭の整理ができ様々なテーマにも対応できるようになりました。ある程度書き進めたら、時間を測り取り組むと良いと思います。他の筆記試験にも言えることですが、日頃から時間を意識して取り組むことは、本番で焦らないために必要なことです。小論文は個人面接に生かせるので、教員採用試験を受けると決めた方は、できるだけ早く教職課程センターに行き、小論文対策を始めてください。

②模擬授業

模擬授業の対策は一次試験終了後、教職課程センターの先生に指導していただきました。神奈川県の模擬授業は、自分で好きな専門科目の単元を選び、50分を想定した授業の導入部分の10分間の授業を行います。一次試験の対策を進めつつ、どの単元の授業をするか考えておくと良いと思います。私は、数学と日

常生活の結びつきから興味・関心が生まれやすいと考えたので、三角比の応用を選び、磁石付きの掲示物等を用意しておき、東京スカイツリーなどの建物の高さを三角比で求める授業を行いました。事前準備をしておく、面接官に意欲の高さをアピールでき、10分間を有効活用できるのでとてもおすすめです。

③個人面接

個人面接の対策は、教職課程センター主催の面接講座に参加し、指導していただきました。はじめに、アナウンサーによる面接講習が3年生の2月にありました。ここでは、面接の入室時のマナーや姿勢、声の大きさ等のポイントをアナウンサーの方から教わりました。私は姿勢が悪く、相手が聞き取りやすい声を出すことが苦手だったので、腹式呼吸の練習方法などを聞くことができ、とても勉強になりました。講習終了後は、実際に個人面接の練習をさせていただきました。初めての面接練習は、とても緊張し質問の半分も答えられず、答えたものも質問に正対しておらずボロボロでした。しかし、ノートに面接回答を書き出しながら練習を重ねるごとに面接特有の環境に慣れ、緊張しながらも質問に回答することができるようになりました。私は面接に対して苦手意識を持っていましたが、事前にたくさん練習したおかげで本番では自信を持って回答することができました。面接対策で重要なことは、多くの人と練習し、アドバイスをもらうことだと思います。

3. 最後に

私にとって教員採用試験は決して楽な道ではありませんでした。周りの友人は進路が決まり始めている中での教員採用試験だったので、とても焦り、眠れないことや自分は教員に向いていないのではないかと思う時期もありました。しかし、最後は「教員になりたい」という気持ちを大切に良かったなと思います。是非、これから教員採用試験を受ける方は「教員になりたい」という気持ちを大切に、最後まで諦めずに頑張ってください。応援しています。

教員採用試験に向けて

T. M. (理工学部経営システム工学科4年)

私は横浜市教員採用選考に合格し、来年度から中学校数学科教員として勤務します。これから教員採用試験を迎える方にとって参考になれば幸いです。

(1) 対策を始めるにあたって

まずは教員になりたいという意思を固めることが大切です。どっちつかずの状態では何かを始めても上手くいかないことは何事でも共通です。就活でも教職でも、行動を始めるのは早ければ早い方がいいに決まってい

ます。今後本当に自分がやりたいことは何か、ということのを早い時期に固めてほしいと思います。

(2) 試験を知る

何の試験でも同じですが試験を知ることが大切です。横浜市は一次試験と二次試験があります。一次試験では、専門教養(数学)と一般教職教養の二つの試験があります。二次試験で、個人面接と小論文、模擬授業の三つの試験があります。ほかにも、時間や記述かマークシートか、内容的なことや合格基準点など色々あります。試験について知ってから勉強に臨むことで効率的な対策が可能になります。

(3) 一次試験対策

前述したように、試験を知るために過去問から取り組みました。まず専門教養に関しては、基礎的なことから始めても十分間に合うと思います。というのも私は高校時代の予備知識が無い状態からのスタートだったからです。苦手な分野をつぶしたり、あえて捨てる分野を作ったりもしました。合格ラインは六割と確信していたので、戦略の一つとして持っておくのもあります。

(4) 一次試験当日

会場は横浜市立大学でした。余裕を持って行動すればこれまで受けてきた試験と何ら変わりはありません。

(5) 二次試験対策

二次試験の対策を本格的に始めたのは、一次試験が終わってからです。主に教職課程センターで開催して下さっていた面接練習で多くのものが得られました。自分で対策するのが難しい場合は教職課程センターを頼るのが一番だと思います。

(6) 個人面接

横浜市では面接カードを事前に提出していました。面接カードの内容は教師の志望理由や理想の教師像、過去の経験等です。当日はそこから質問がきました。面接官は二名でした。質問内容に関しては緊張してあまり覚えていませんが、とても話しやすい方々でした。印象は明るいに越したことはないので、はきはきと受け答えしましょう。話す内容に関しては大きく二つあり、「自分の軸を持つこと」と「自分の話したいことを話せるようにすること」です。自分の中での理想像があると、何事もそれに合わせて話を展開することができるので、自分の思っていることを自分の言葉で話せることにもつながります。また、自分の売り込みたい点について聞かれないことも練習の中であつたので、逆にそこに誘導できるような切り返しができると思います。また、個人面接の中で場面指導があります。教職課程センターには予想される場面の資料もありますので、たくさん練習を重ねてください。

(7) 模擬授業

模擬授業は授業の中のどこでもいいので七分間を切り取って行います。テーマも事前に発表なので、切り取る場所を事前に決めておいて練習することが大切です。私は導入を行いました、そこがおすすめです。この後の授業でどこを一番伝えたくて、それをどのようなやり方で伝えていくか、がわかるような導入ができるとういことです。あとは子供たちの興味を引きたいので、どんな範囲が来てても身近な例で話せるといいと思います。

(8) 小論文

テーマは一次試験の合格発表と共に掲示されました。事前に準備した論文を、覚えて再現するような形式でした。論文に関しては教職課程センターの先生方を信頼して頑張れば大丈夫ですので、しっかりと取り組んでください。

(9) 併願について

私はあまり勉強をしなかったもので、不安が消えず、四自治体も受験しました。お金もかかるので四自治体も受験するのはあまりお勧めしませんが、受験慣れやその他のためにも本命の前に一回位受けておくのはいいと思います。あとは自分には集団討論ができる気がしなかったもので、それは避けて通りました。自治体に対してこだわりがなければそういった受験自治体の探し方もありかと思えます。

(10) 最後に

私自身もですが不安なことは多くあります。ですが教員になりたいという意欲があれば必ず乗り越えることができると思います。試験を迎えるに当たって周りのサポートも多くあると思いますので感謝を忘れずに、頑張ってお策に励んでください。

教員採用試験について

Y. M. (理工学部創生科学科 4年)

私は令和4年度東京都教員採用選考(5年度採用)を受験し、「中高共通の数学」に合格しました。この合格体験記が、東京都の教員採用試験を受験する方はもちろん、教員を目指そうとしている方にも参考になれば幸いです。

(1) 東京都教員採用選考について

一次試験：教職教養(60分/マークシート)

専門教養(60分/マークシート)

論文(70分/1050字以内)

二次試験：集団討論(30分程度)

個人面接(30分程度)

(2) 教職教養 ～過去問をやり込む～

出題範囲がかなり広く、東京都の教育施策も出題さ

れるので時間をかけて対策をしました。特に過去問を何度も解きなおしました。過去問に回答や調べたことなどを赤ペンで書き込み、赤シートを使って覚えました。教職教養は毎年同じような問題が出題されています。重要な語句や条文は暗記するようにしました。また、1冊ノートを作り、絶対に覚えておかなければいけない内容を書いていました。過去問を隅から隅までやり込むことで、当日は自信をもって取り組めると思います。人によっては参考書などで教職教養を勉強してから過去問に取り組む人もいます。しかし、私はあまりおすすめしません。覚えることが多いからです。過去問を有効活用してください！

(3) 専門科目 ～苦手分野を克服～

教職教養と同様に過去問を解き、自分の苦手な分野を見つけ重点的に勉強していました。高校の時に使っていた青チャート等で苦手な単元を集中的に学習しました。基本的な問題が多いですが、60分という短い時間で問題を解かないといけません。時間を測って過去問に取り組むと効果的です。

(4) 集団討論 ～受験者は仲間～

面接官3人に対して受験者4～5人で集団討論を行います。集団討論は1つのテーマ(事前に知らされている5つのテーマから1つ)について話し合いをします。この試験で面接官は受験者の人柄や協調性を見ています。他の受験者を敵だと思のではなく、仲間だと思って挑みました。そこで私が気を付けていたことは2つあります。

①相手の意見を否定しない

たとえ自分が納得できない意見だとしても否定してはいけません。頷いて上手くスルーするか、違う話題に変えました。

②相手の意見に賛同と付け加え

相手の意見が参考になったり手立ての1つとして取り入れたりするときは、賛同や付け加えをしました。「いいと思います！」や「その意見に追加して私は…」というフレーズを沢山使うとスムーズに話し合いが進みます。

(5) 個人面接 ～表情を豊かに～

面接で緊張しない人はまずいないと思います。私も非常に緊張しました。しかし、本番では、大きな声と笑顔は忘れませんでした！わからない内容を聞かれても落ち着いて話しました。内容は面接票・単元指導計画・場面指導の3つです。元気で笑顔を忘れると顔がこぼってしまいます。

(6) 最後に

教員採用試験は準備することが沢山あります。優先順位を決め、計画的に対策することが大切です。この文章を読んでいる方と将来一緒に学校で働けることを

祈っています。

合格体験記

Y. T. (理工学部応用情報工学科4年)

私は令和5年度東京都公立学校教員採用候補者選考中・共通数学に合格することができました。教員になろうと思っている方に対し、何か参考になることができれば幸いです。

1. 1次試験

これはひたすら勉強するしかありません。ここでは私が実際に行った対策を書いていこうと思います。

(1) 教職教養

これは試験2週間前からひたすら過去問を解きました。個人の感想ですが、同じ問題が出てきやすい傾向にあるので、そこまで広くはやらずに3年分程度を完璧にするというのがよいと思います。

(2) 専門教養

私は3年生の11月ごろから青チャートを解き始め、解き終わってから東京都と神奈川県の問題を解き始めました。神奈川県の問題を解いた理由として、卒業生の篠原先生に神奈川県の問題は東京都と似ているというアドバイスをいただいたからです。

(3) 論文

私は3年生の12月ごろから当時の教職課程センターの相談員である田神先生に添削していただき、自分の論文の型を作りました。

2. 2次試験

ここからはあなた自身の色を出していくパターンです。ここでは私が行った対策と試験中に私が考えていたことを書いていこうと思います。

(1) 集団面接

私が行った対策としては、教職課程センター主催の面接練習に参加しました。この面接練習に参加し、面接の雰囲気慣れていきました。当日は練習のおかげで平常心を保つことが出来ました。そして、「失敗は成功の味を引き立てる調味料である」というトルーマンカポーティという作家の名言を自分の発言に織り交ぜ、どうにか面接官の印象に残ろうという考えを持って臨んだことを覚えています。

(2) 個人面接

個人面接も教職課程センター主催の面接練習に参加し、対策を行いました。また、面接表や単元指導計画は田神先生に添削していただき、練習通りにやろうという考えを持って本番に臨みました。

3. 受験を考えている方へ

1次試験に対しては勉強しかありません。あなた自身ができる最大の努力をもってすれば間違いな

いでしょう。問題は2次試験なのです。2次試験で机上の空論ばかりを述べていてはだめでしょう。できる限り、自分の経験から感じていること、やっていきたいことを語る事が大事です。そのためにも時間があるうちに、学習支援ボランティアに行き学校現場を体験したり、教育実習で様々なことにチャレンジし、経験を積んでください。どんな道に進むとしてもそれがきっとあなたの糧になるはずです。

4. 最期に

私のこの合格は、田神先生や篠原先生、教職課程センターの齋藤先生をはじめ、多くの方の協力なくしては得ることはできなかったものだと思います。本当にありがとうございました。この受験を通して感じた「人と人とのつながりの重要性」を胸に今後頑張っていきたいと思います。

教員採用試験について

H. U. (生命科学部応用植物科学科4年)

私は、令和4年度東京都教員採用試験に合格し、来年度から東京都で理科教員として勤務します。私が教員を目指し始めたのは大学3年の11月で、本格的に勉強を開始したのは年明けの1月でした。

本稿が教員を目指し始めたのが遅い方、東京都の教員を目指している方の参考になれば幸いです。

(1) 試験を受けるまでの心持ちについて

教員採用試験は、一般的に7月から8月に実施されます。そのため、大学4年で就職活動をしている人たちの大半は就職活動を終わらせていて内定をもらっています。必然的に、教員採用試験受験者は、内定のない、将来の定まっていない状態なので非常に不安になるかと思います。この時重要になってくるのは、自分が本当に教員になりたいのか、もし試験に落ちたらどうするのか、をよく考えておくことだと思います。

(2) 本当に教員になりたいのか考える

前述したように、教員試験を受け、合格発表があるまで、不安になることがあると思います。この時、自分が本当に教員になりたいのであれば、その不安に打ち勝つことができると思います。また、試験の中では「どうして教員になりたいのか」を問われる場面が出てきます。その時に明確な理由を持っているかいないかでは回答の仕方が大きく異なります。

(3) 試験に落ちたらどうするのか

試験を受ける前から試験に落ちた場合を考えるものではないと意見される方もいるかもしれませんが、私は試験に落ちた後の身の振り方を考えておいた方がいいと思います。なぜなら、落ちてもそのあと別の道に進めるから大丈夫、と思えるか思えないかで心の余裕

に差ができるからです。試験に落ちても、大学院に進む、就職する、私学の教員になるなど、道はいくらでもあります。自分の進路について様々な選択肢を考えておくことをお勧めします。

(4) 東京都教員採用試験について

一般選考では、一次・二次試験があります。一次試験は、筆記試験（教職教養、専門科目、小論文）。二次試験は、集団討論と個人面接です。一次試験で一般教養がないこと、教職教養が専門的であることが特徴です。

(5) 教職教養について

東京都の教職教養は専門的と説明しましたが、その対策は簡単です。過去問題集を何度も解きなおすことです。東京都は過去に出した試験問題の一部をそのまま試験問題として使用することがあるため、過去問題集を丸暗記していれば、それなりの点数を取ることが可能です。

(6) 専門科目について

専門科目は大学受験をした人であれば1度は勉強したものが出題されています。過去問題集を解き、自分の実力を測ったうえで、自分の課題にあった問題集を解いていくことをオススメします。

(7) 小論文について

おそらくこの小論文の勉強が一番難しいかと思えます。小論文を書くためには、教職教養の知識と文章能力、小論文の型が分かっている必要があるからです。小論文対策としては、教職課程センターでの対策を活用するといいかと思います。しかし、教職課程センターで対策をするにもそれなりの労力と時間が必要となります。一次試験対策では、教職教養や専門科目より、この小論文に力を入れるべきと考えます。

(8) 集団討論について

東京都教員採用試験の集団討論は、1班4人～5人で決められたテーマについて話し合うというものです。テーマは、一次試験合格発表後に郵送されてくる紙に書かれています。この試験で重要になるのは、①テーマについて勉強しているか（理解しているか）②班員と協力し合っているか③班員に気を配りながら話しているか、です。いかに面接官に良い印象を与えられるか、が重要になってくる試験のため、話し方や話し合いの進め方をよく考えておくといいかと思います。

(9) 個人面接について

個人面接では、面接票、単元指導計画を持参する必要があります。面接票からは、受験者の経験や、どうして教員を目指したのか等を聞かれます。単元指導計画からは、何故この単元を選んだのか、具体的にどのような授業を展開しようと考えているのか、等を聞かれます。最後に場面指導についての質問がされます。

面接票から質問されると前述しましたが、面接票の内容以外に面接官が聞きたいことを自由に聞かれることがあります。自分がどれだけ教員になりたいか、教員になったら何をしたいのか、等のことを考えておく必要があります。単元指導計画は、自分らしい授業展開を意識して作成すると、面接官に良い印象を与えることができるかと思えます。場面指導に関する質問は、教職課程センターの面接試験対策を活用するといいか対策になると思えます。

(10) 最後に

私は今年の教員採用試験に無事合格することができましたが、これは私の努力よりも、対策に協力してくれた友人や教職課程センターの齋藤先生、田神先生、辻本先生のおかげだと思っています。試験対策を自分一人で行おうと思っても、気力も知識もスキルも足りず、難しいと思えます。ぜひ教職課程センターを活用してください。そして、一緒に法政大学から教員採用試験を受験する人たちと、仲間として協力し合ってください。きっとみんなでそろって合格できると思えます。

ここまで読んでくださった皆さんの合格を願っています。

教員採用試験について

N. T. (理工学部経営システム工学科4年)

私は神奈川県の中学校数学の教員採用試験に合格しました。また、大学3年次の夏から8ヶ月間「かながわティーチャーズカレッジ」という県の教員養成プログラムに参加し、神奈川県教育について学びました。この合格体験記では、教員採用試験の対策と、経験して良かったことについて書かせていただきます。少しでも参考になれば幸いです。

1. 神奈川県教員採用試験について

一般選考では、1次・2次試験があります。1次試験では、専門科目と一般教養・教職教養と論文。2次試験では、個人面接と模擬授業が実施されます。ただし、論文は1次試験のときに書きますが、1次試験を通過した人のみ採点され、2次試験で評価されるので気を付けてください。

2. 専門科目について

難易度は大学入試の基本～標準レベルとそれほど難しくはないですが、慣れるまでは時間が足りなくなってしまうことがあるので、時間配分を考える必要があります。そのため、制限時間内に終わらせることを常に意識して、過去問演習をしていました。私は、大学への通学に片道2時間30分かかるので、通学時間を有効活用するためにYouTubeを活用して勉強しまし

た。また、指定校推薦で大学に入学したため、大きな試験という高校受験しか経験したことがありませんでした。そのため、試験慣れするために東京アカデミーの模試を4回受験しました。緊張しやすい人や不安な人は、本番を想定した練習や準備をしておくといいと思います。

3. 一般教養・教職教養について

参考書の分厚さを見れば分かるように、一般教養・教職教養は範囲がとても広く、全て勉強しようとするのは現実的ではありません。しかし、過去問を解いて分析してみると、何年も出ていない分野がかなりあることが分かると思います。勉強する前に解けないことは当たり前なので、出題傾向と難易度を知ることが目的に、1番最初に過去問演習をやってみてください。そして、勉強する範囲を絞って優先順位をつけるのが効率的だと思います。また、教員養成セミナーを定期購読して勉強していました。教員採用試験の情報や最新の教育時事が分かりやすく解説されている本で、勉強のモチベーションの維持にも繋がると思うので、おすすめです。

4. 論文について

論文は田神先生の指導を受けて対策をしました。何回も書いて自分の「型」を身に付けることが大切です。「型」を身に付けることができれば、あとはパズルのピースのように当てはめていだけなので、文章を書くのが苦手な人でも必ずスラスラと書けるようになります。また、論文練習が面接や集団討論、教職教養など他のことにも繋がるように感じたので、早いうちから対策するのがいいと思います。論文は自分一人で対策できるものではないので、積極的に教職課程センターを利用しましょう。

5. 個人面接について

個人面接では、主にかながわティーチャーズカレッジや教育実習、学生時代の部活動の「経験」について質問されました。「どんな経験をしてそこから何を学んだのか」を自分の言葉で話せるようにしておくと思います。個人面接は質問に対する受け答えだけでなく、面接官に良い印象を与えることも重要視されます。そのため、笑顔とハツラツさを意識して臨みました。簡単なことのように思えても緊張する場面では案外難しいので、普段の面接練習のときから心掛けましょう。

6. 模擬授業について

模擬授業は、2次試験の1ヶ月半前にテーマが発表されました。令和4年度のテーマは「確かな学力の向上をめざし、生徒の主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫された授業」でした。テーマに沿った1単位時間の授業計画を立て、指導案を作成し、導入か

ら展開にかけての最初の10分間を模擬授業として行います。

生徒の興味関心を高めるために、日常生活に関する題材を取り入れることを意識しました。また、かながわティーチャーズカレッジに参加したときに面接官を経験した方が、「模擬授業だけでは指導力を測れない上に、講師経験者でない限り授業が下手なのは当たり前なので、この10分間にどれだけ準備してきたかを見ている」と話されていました。既習内容との繋がりを話したり、生徒の興味関心を高めるための工夫を取り入れたりして、沢山考えて準備できるといいと思います。また、生徒にとって安心感のある授業を目指していたので、生徒の目を見て笑顔でハキハキと話すように心掛けました。これは実際の試験のときに感じたことですが、面接官は意外と生徒役の方も見ていました。自分の番が回ってくる前で緊張していたり、終わった後に気が抜けてしまったりすることもあると思いますが、最後まで生徒役に徹しましょう。

7. かながわティーチャーズカレッジ

前述のとおり、私は大学3年次の夏から8ヶ月間、神奈川県教員養成プログラム「かながわティーチャーズカレッジ」に参加しました。ここでは、毎回決められている教育テーマについて講義を受け、その後希望校種・教科の垣根を越えて受講生達で議論しました。また、お互いの模擬授業を見合って改善策について議論したり、実際に学校現場に行って教育ボランティアをやらせていただいたりと、とても貴重な経験ができました。学んだことも沢山ありましたが、何より教育への情熱がある仲間達に出会えたことがとても刺激になったので参加して良かったです。また、教育に関する経験があると、面接で教育への熱意をアピールすることができますし、経験から答えることができるようになるので説得力が増します。特に何もやっていない方は1日・数日の学習ボランティアでもいいのでぜひ積極的に経験してほしいです。

8. 最後に

周りが早い段階で就職活動を終えていく中で教員採用試験対策を続けていくことは、辛いときもあると思います。さらに、もし試験に落ちたら来年からどうになってしまうのだろうという不安もあると思います。そんな時は一人で抱え込まないで家族や友人、学校の先生など周りを頼ってください。きっと助けになってくれると思います。また、自分が学んできたことや経験してきたことが最後に自信に繋がるので、自分の為にしっかりと対策をしてください。皆さんのことを心から応援しています。